Ciotto

機能ガイド

あなたのために働くブラウザ

内容：Ciotto のすべての機能を、ひとつずつ順に取り上げます。各機能について、名前、インターフェースのどこにあるか、何をするかを数行で説明します。

文書のバージョン：1.1 — 2026年十一月7日

対象とする Ciotto のバージョン：0.5.0

対象プラットフォーム：デスクトップ Windows / macOS / Linux、Android、iOS、Web コンパニオンアプリ、Chromium / Firefox / Safari 拡張機能。

コマンドの名前は英語で記しています。インターフェースの言語が English のとき、アプリケーションがそのように表示するためです。言語を日本語に設定すると、同じ項目が同じ位置に翻訳されて表示されます。

このガイドは、イタリア語の原文から言語モデルの助けを借りて翻訳したものです。わかりにくい箇所がある場合は、原文が優先されます。

このガイドの読み方

各機能は番号付きの項目で、三つの部分からなります。

- **名前** — 製品の中でその機能が呼ばれている名前。
- **場所** — インターフェース上の正確な経路（メニュー、ボタン、ショートカット）と、利用できるプラットフォーム。
- **機能** — ふだんの言葉で二、三行。

経路の表記のきまり：

- ⋮ はツールバーの右端にあるメニューボタンです。デスクトップでは多くの項目がサブメニューの中にあります。⋮ → **Tools** → **Open a List of URLs…** は、⋮ を開き、次にサブメニュー **Tools** を開いて、その項目を選ぶという意味です。サブメニューは **History**、**Favorites and reading list**、**Notes**、**Zoom**、**Page**、**Layout**、**Workspaces**、**Profiles**、**Macros**、**Tools**、**Privacy and identity**、**Appearance and language**、**Customise Toolbar**、**Extensions** で、公開ビルドに限り **Release Channel** もあります。
- スマートフォンでは ⋮ を押すと引き出し式のシートが開きます。いちばん上に五つのクイックアクションが並び、その下に **Page**、**Workspaces and layout**、**Tools**、**Privacy and identity** のグループがあって、見出しをタップするとひとつずつ開きます。シートの項目は、デスクトップとは表記が少し違うことがあります（**New Tab** ではなく **New tab**）。タブを長押しするとタブのシートが開きます。右クリックに相当する操作です。
- **メニューバー** は OS のネイティブメニュー（File、Edit、View、Layout、History、Extensions、Window、Help）のことで、デスクトップにだけあります。
- **設定** は ⋮ → **Settings…**（または `Ctrl/Cmd+,`）で開くウィンドウのことで、十四のセクションが四つのグループにまとめられています。スマートフォンでは全画面で開き、**Done** で閉じます。
- ショートカットは `Ctrl/Cmd+…` のように書きます。Windows と Linux では Ctrl、macOS では Cmd です。

分野の索引

分野	項目	扱う内容
A. 起動、ウィンドウ、インターフェース	1–10	アプリケーションの開き方、スタートページ、テーマ、言語、アクセシビリティ、「Ciotto を知る」ページ、透明なウィンドウ
B. タブ	11–28	タブのライフサイクル、名前、ロック、グループ、移動、リンクのプレビュー、休止
C. アドレスバー、ナビゲーション、検索	29–35	ナビゲーション、ローカルの候補、検索エンジン、ズーム、サイト情報

D. 分割表示とパネル	36–41	ひとつのウィンドウに複数のページ、ドラッグできる境界、レイアウトの描画
E. 身元と作業環境	42–49	プロファイル、ワークスペース、プロジェクト、プライベートコンテキスト、セッションの復元
F. 履歴とメモリー	50–58	タイムライン、閲覧の地図、読んだものを覚えるメモリー、データの消去
G. 作業のための道具	59–71	定期検索、URL の一覧、複数のタブへの質問、待機させたタブ、お気に入り、読書、メディア、メモ
H. マクロと自動化	72–78	マクロの記録・編集・実行、スケジュール実行、データシート
I. AI アシスタント	79–82	サイドバー、プロバイダーとモデル、ページの翻訳
J. 音声	83–85	声に出して言うコマンド、音声での応答、エージェントに任せる作業
K. プライバシーとセキュリティ	86–110	盾、基本の保護機能、完全なカタログ、署名付きリスト、すべてを焼く
L. パスワードと資格情報	111–121	金庫、自動入力、住所とカード、健全性、TOTP、パスキー
M. Lightning ID	122–125	ローカルの鍵、パスワードなしのログイン、WebLN と Nostr
N. 暗号化された同期とタブの受け渡し	126–137	端末、連絡先、タブとセッションの受け渡し、カテゴリー
O. Chrome 拡張機能	138–141	Web Store、パッケージ化されていない拡張機能、アクションバー、プロファイルごとの拡張機能
P. ダウンロード、ファイル、印刷	142–150	ダウンロード、ローカルファイル、ページの保存、印刷、PDF、取り込み、ウェブアプリ
Q. 設定、更新、配布	151–159	十四のセクション、ショートカット、インポート、更新、Help メニュー、パッケージの保護
R. プラットフォームごとの違い	160–165	Android、iOS、Web、拡張機能で何が変わるか、そしてスマートフォンのインターフェース

A. 起動、ウィンドウ、インターフェース

1. アプリケーションの起動とメインウィンドウ

> **場所：**スタートメニュー、Dock、Android のアプリドロワー、または iOS のホーム画面にある Ciotto のアイコン（角の丸い暗い正方形の上に、小石から削り出した明るい「c」）。

> **機能：**タブバー、アドレスバー、ツールバー、ページ領域を備えたウィンドウを開きます。ページは HTML の中の枠ではありません。メインプロセスがインターフェースの上に配置するネイティブのビューです。

プラットフォーム：すべてのネイティブプラットフォーム（デスクトップ、Android、iOS）。

2. 起動モード

> **場所：**設定 → **New tab & startup** → **On startup**。

> **機能：**Ciotto を開いたときに何を表示するかを決めます。前回の続きから再開する、新しいタブを開く、手で指定したページの一覧を開く、のいずれかです。

3. スタートページとカスタマイズできるブロック

> **場所：**新しいタブを開くたびに表示されるページ。ブロックは 設定 → **New tab & startup** で、スイッチ **New tab: favorites**、**New tab: frequent**、**New tab: projects**、**New tab: reading**、**New tab: remote tabs** によってオンにします。同じ一覧の **New tab: Points of View** は、おすすめのサイトを消していた場合にそれを元に戻します。

> **機能：**Ciotto のマーク、「ciotto」の文字、キャッチフレーズ「The browser that works for you」（日本語では「あなたのために働くブラウザ」）を表示します。ニュースフィードはありません。五つのブロック（お気に入り、よく開くサイト、プロジェクト、リーディングリスト、他の端末のタブ）は、オンにするまでオフのままです。初期状態で表示される提案は二つだけです。上の隅にある **Discover Ciotto** ボタンと、おすすめのサイト **Points of View** の枠で、後者は同じタブで開きます。どちらにも ✕ があり、押すとその端末からは永久に消えます。おすすめのサイトの一覧とそのアイコンはプログラムに組み込まれています。このページを描くために、Ciotto はどのサーバーにも何も問い合わせません。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。

4. ホームボタンとホームページ

> **場所：**設定 → **New tab & startup** → **Show Home button** と **Home page**。ボタンはその後、ツールバーの「戻る」と「進む」の間に表示されます。Windows と Linux では、同じ操作にショートカット `Alt+Home` があります。

機能：選んだページへ戻るボタンを追加します。アドレスを空にしておくと、ボタンは新しいタブを開きます。

5. ライト、ダーク、またはシステムのテーマ

場所：⋮ → **Appearance and language** → **System** / **Light** / **Dark**、または 設定 → **Appearance & accessibility** → **Theme**。

機能：Ciotto のインターフェースの見た目を、ライト、ダーク、「OS に合わせる」の間で切り替えます。この選択は持ち運べる設定で、同期している他の端末にも届きます。

6. インターフェースの言語

場所：⋮ → **Appearance and language** の、三つのテーマの下にある一覧（各言語はその言語自身の名前で書かれています）、または 設定 → **General** → **Interface language**。

機能：メニュー、パネル、メッセージの言語を切り替えます。言語は十六あります。英語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、簡体字中国語、ロシア語、韓国語、ポルトガル語、日本語、アラビア語、スワヒリ語、ハウサ語、ヨルバ語、アムハラ語、クリンゴン語（tlhIngan Hol）です。アラビア語では、インターフェースが右から左に配置されます。言語は持ち運べる設定で、同期している他の端末でもユーザーに付いていきます。

7. アクセシビリティ：最小ズーム、コントラスト、動き、フォーカス

場所：設定 → **Appearance & accessibility**。

機能：**Default page zoom**、**Minimum font size**、**Contrast**（System、Normal、More contrast）、**Reduce motion**、**Animate images and GIFs**、**Caret browsing**、**Always show keyboard focus** をまとめています。これらの設定は、Ciotto のインターフェースにも、読み込んだページにも適用されます。

8. お気に入りバー

場所：設定 → **New tab & startup** → **Show favorites bar**。バーはアドレスバーの下に表示されます。

機能：個人のお気に入りと、使用中のワークスペースのお気に入りを、常に見える一行に並べます。フォルダはドロップダウンメニュー付きのボタンになり（サブフォルダは横に開きます）、行の末尾の **Manage** は保存した項目のページを開きます。項目をクリックすると、新しいタブで開きます。

9. Ciotto を知る

> **場所：**⋮ → **Discover Ciotto**、メニューバー → **Help** → **Discover Ciotto**、スタートページの隅にある **Discover Ciotto** ボタン。スマートフォンでは ⋮ シート → **Discover Ciotto**。

> **機能：**タブで開く内部ページで、Ciotto にできることを紹介します。機能ごとに一枚のカードがあり、十五の分野にまとめられています。各カードにはタイトル、一文の説明、手順と実際の場面を載せた **How it works**、そして可能な場合は **Take me there** ボタンがあり、話題にしているパネル、設定のセクション、コマンドを開きます。デスクトップでは、タイトルの横にその時点で割り当てられているショートカットが表示されます。上部の欄でタイトルと説明文を検索でき、ラベルの列から各分野へ移動できます。そのプラットフォームにない機能は表示されません。プライバシーカタログのカードの下には、その端末で使える保護機能の一覧があります。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。スマートフォンには、ショートカットと、そこに存在しないコマンドのボタンがありません。

10. Ciotto 越しに見る

> **場所：**ツールバーのボタン（名前は **See through Ciotto and click below**）、メニューバー → **View** → **See through Ciotto and click below**、⋮ → **Appearance and language** → **See through Ciotto and click below**。

> **機能：**ウィンドウを半透明にして他のアプリケーションより手前に保ち、クリックとスクロールを下にあるアプリケーションへ通します。別の場所で作業しながら、ページを目の端に置いておけます。タブ列とツールバーは不透明なまま使え、ボタンの代わりに **Click-through mode** という表示が、元に戻すキーの組み合わせとともに現れます。通常のウィンドウには `Ctrl/Cmd+Shift+U` で戻ります。これはシステム全体で有効なショートカットです。他のアプリケーションがすでにこの組み合わせを使っている場合、このモードは始まらず、Ciotto がそのことを伝えます。

プラットフォーム：Windows と macOS。Linux ではウィンドウを半透明にできないため、このコマンドは表示されません。スマートフォンにはありません。

B. タブ

11. タブを開く、閉じる、切り替える

> **場所：**上部のタブ列、＋ ボタン、⋮ → **New Tab**。開くには `Ctrl/Cmd+T`、閉じるには `Ctrl/Cmd+W` またはタブの中クリック。`Ctrl/Cmd+1…8` はその位置のタブへ、`Ctrl/Cmd+9` は最後のタブへ移動します。スマートフォンでは ⋮ シート → **New tab**。タブの数を示すボタンを押すと、すべてのタブの一覧が開きます。

> **機能：**タブの基本的なライフサイクルです。パネルはそれぞれ自分のタブ列を持ち、表示されるのは常にフォーカスのあるパネルのタブ列です。デスクトップでは、アクティブでないタブの ✕ はポインターを重ねると現れます。

12. 最後のタブの隣にある「+」ボタン

> **場所：**タブ列の、最後のタブのすぐ後ろ。オンにする必要はありません。

> **機能：**タブを開くボタンは、ウィンドウの端に張り付くのではなく、最後のタブの後に続きます。タブには固有の幅があり、行を埋めるために伸びることはありません。タブが多くて列をスクロールさせる必要があるときは、ボタンは画面の外へ出るのではなく**列の端に留まります**。どちらの場合も、タブを開くためにタブ列を横断する必要はありません。残った空きスペースは、引き続きウィンドウのドラッグに使えます。タブ列がアイコンだけを表示するスマートフォンでは、「+」とアクティブなタブを閉じるボタンが列の横に固定されています。

13. 閉じたタブを開き直す

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+T`、メニューバー → **File** → **Reopen Closed Tab**、⋮ → **Reopen Closed Tab**、タブを右クリック → **Reopen Closed Tab**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Reopen closed tab**、タブのシートにある同じ項目、またはタブを閉じたあと数秒間表示される **Tab closed** の通知にある **Undo**。

> **機能：**最後に閉じたタブを、そのアドレスに「戻る」「進む」の履歴ごと戻します。各ウィンドウは直近の二十五件を再起動後も覚えていて、この記録はメモリー機能がオフでも働きます。

14. タブを複製する

> **場所：**タブを右クリック → **Duplicate tab**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Duplicate tab**。

> **機能：**同じアドレスの二つ目のタブを、元のタブの隣に、同じ身元で開きます。

15. タブに名前を付ける

> **場所：**タブのタイトルを**ダブルクリック**、またはタブを右クリック → **Rename Tab…**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Rename tab**。

> **機能：**タブのタイトルはページのタイトルで、ページはそれをいつでも変えます。同じサイトのタブを十個開くと、タブ列には途中で切れた同じ言葉が十回並ぶだけになります。そこでタブには、**あなたが付けた名前**を持たせることができます。名前はタイトルを置き換えるのではなく、その横に並びます。ページは自分の名前を名乗り続け、**欄を空にする**と本来のタイトルが戻ります。そのタイトルは、タブがその間にたどり着いた場所に合わせてすでに更新されています。**ページを移動しても名前は消えません。**タブに名前を付けるのはたくさんのタブの中で見分けるためであり、最初のクリックで失われては意味がありません。名前は再起動、プロジェクト、複製を越えて残ります。固定したタブはタイトルを表示しないので、名前の変更はメニューから行い、名前はツールチップで読みます。

16. タブを固定する

> **場所：**タブを右クリック → **Pin Tab** / **Unpin Tab**。ショートカットに割り当てることもできます（**Pin or unpin tab**）。スマートフォンでは、タブを長押し → **Pin tab**。

> **機能：**タブをタブ列の先頭に、小さな形で × なしに固定し、他のタブに紛れないようにします。固定したタブは眠らされることがなく、一括で閉じる操作でも飛ばされます。

17. タブをロックする

> **場所：**タブを右クリック → **Lock Tab** / **Unlock Tab**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Lock tab**。ショートカットにも割り当てられます（**Lock or unlock tab**、項目 152）が、既定のキーの組み合わせはありません。

> **機能：**ロックしたタブは、通常の閉じ方をすべて拒みます。×、中クリック、`Ctrl/Cmd+W`、メニュー項目、拡張機能、マクロのノードのいずれもです。名前の横に**錠前**のアイコンが表示され、× は描かれなくなります。押すと拒むボタンは、存在しないボタンよりたちが悪いからです。一括で閉じる操作（他を閉じる、右側を閉じる、すべてを焼く）はこのタブを飛ばします。あとで戻すように予約しようとすると、何も閉じない予約を記録するかわりに、メッセージとともに拒否されます。**この制限は明示されています：**ウィンドウを閉じたり環境を削除したりすれば、このタブも一緒に消えます。錠前は誤ったクリックからタブを守るものであって、ウィンドウを人質に取るものではありません。

18. タブのミュートと音声インジケーター

> **場所：**音を出しているタブにある ♪ ボタン（タブをミュートすると × になります）、タブを右クリック → **Mute Tab** / **Unmute Tab**。ショートカットに割り当てることもできます（**Mute or unmute tab**）。スマートフォンでは、タブを長押し → **Mute tab**。

> **機能：**どのタブが音を出しているかを示し、再生を止めずにそのタブを黙らせることができま

す。

19. 他のタブ、または右側のタブを閉じる

場所：タブを右クリック → **Close Other Tabs** / **Close Tabs to the Right**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Close other tabs** / **Close tabs to the right**。

機能：クリックしたタブのパネルに限って、複数のタブを閉じます。他のパネルや他のワークスペースには触れず、固定したタブとロックしたタブは飛ばします。

20. タブグループ

場所：タブを右クリック → **Add to New Group**、**Move to Group**（パネルにすでにグループがあるときに表示されます）、**Remove from Group**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Add to new group**、**Collapse group** / **Expand group**、**Remove from group**。

機能：複数のタブを、タブ列の色付きのラベルの下にまとめます。新しいグループは **Group 1**、**Group 2** のように名付けられ、色はいつも同じです。今のところ、名前と色はインターフェースから変えられません。ラベルをクリックするとグループが折りたたまれ、そのグループに属するアクティブなタブだけが見えたまま残ります。グループはパネルに属し、セッションの復元とともに戻ります。

21. タブの複数選択

場所：タブ列で、Ctrl（macOS では Cmd）を押しながらクリックします。デスクトップのみ。

機能：同じパネルの複数のタブを選択し、タブ列で強調表示します。今のところ、選択はグループのために使われます。選択したタブのメニューから実行した **Add to New Group**、**Move to Group**、**Remove from Group** は、選択したすべてのタブに適用されます。メニューの他の項目は、クリックしたタブだけに作用します。

22. タブをパネル間で移動する

場所：タブを右クリック → **Move to Panel 1**、**Move to Panel 2**…（他のパネルごとに一項目）、またはドラッグ。スマートフォンでは、タブを長押し → **Move to other panel**、または同じように指でドラッグ。

機能：タブを、**身元を変えずに**ウィンドウの別の区画へ移します。ログインしていた人はログインしたままです。タブをドラッグしている間、タブ列に移動先の列が現れます。他のパネルの番号、隣の新しいパネルで開く ▸+、下の新しいパネル用の ▾+、そして他のワークスペースの名前です（項目 23）。移動先がタブ列にあるのは、ページがインターフェースを覆っているためです。同じメニューで、列の中でもタブを移動できます。**Move Tab Left**、**Move Tab Right**、**Move Tab to Start**、**Move Tab to End** です。

23. タブを別のワークスペースへ移動する

> **場所：**⋮ → **Workspaces** → **Move This Tab To…**（前面のタブが対象）、またはドラッグ中に現れる移動先の列で、タブを別のワークスペースの名前の上へドラッグします（項目 22）。

> **機能：**タブを別の作業環境へ移します。移動先の環境が別の身元で閲覧している場合、タブは同じアドレスでその身元のもとに開き直されます。別のウィンドウですでに開いているワークスペースは、移動先として示されません。

24. リンクのプレビュー

> **場所：**オンにするには 設定 → **Tabs & performance** → **Preview links on Shift+click**。その後、リンクを **Shift+クリック**、またはリンクを右クリック → **Preview Link**。初期状態ではオフです。

> **機能：**タブを開くかわりに、リンクをウィンドウの中央に浮かぶ**フローティングの枠**で開きます。上部の細い帯がサイト名を示し、二つのボタンがあります。プレビューを後ろのウィンドウの本物のタブに変える **Open as tab** と、**Close preview** です。Esc を押すか、他の場所をクリックしても閉じます。次のクリックのあとも残るプレビューはプレビューではなく、片付けなければならないウィンドウだからです。枠は**クリックした元のタブのプロファイル**で閲覧するので、ログインしているサイトはログインした状態で見えます。また、枠の中でリンクをたどった場合、**Open as tab** は最初のページではなく**今見ているページ**を開きます。プレビューはウィンドウごとに一つで、二回目のクリックは一つ目を置き換えます。**初期状態でオフの理由：**通常、Shift+クリックはタブを開きます。すでに覚えた操作の働きを黙って変えるのは、機能ではなく不意打ちです。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

25. 横または縦のタブ列

> **場所：**設定 → **Tabs & performance** → **Tab strip**。デスクトップのみ。

> **機能：**タブ列を左側へ縦向きに移します。そこならタブが多くてもタイトルが読めます。

26. 眠るタブ

> **場所：**設定 → **Tabs & performance** → **Suspend inactive tabs**、**Suspend after (minutes)**、**Never suspend**。

> **機能：**放置されたタブを一時停止させ、リソースを解放します。初期状態でオンで、待ち時間は 30 分（5 から 1440 まで）です。固定したタブ、音を出しているタブ、入力済みのフォームがあるタブ、メディアを再生中のタブ、ビデオ通話中のタブ、ダウンロード中のタブには決して手を付けません。**Never suspend** の一覧では、サイト全体を除外できます。一行に一つの名前を書きます。タブ列では、眠っているタブのアイコンが薄くなって小さな月が付き、ツールチップに **Asleep to save memory — opens instantly** と表示されます。デスクトップでは、マシンのメモリーが足りなくなると待ち時間は飛ばされますが、他の条件はすべてそのまま有効です。

27. メモリーの返却（アンロードされたタブ）

> **場所：**設定 → **Tabs & performance** → **Give the memory back after (minutes)**。

機能：さらに一定時間眠り続けると（初期値は 60 分で、タブが眠った時点から数えます）、タブは自分のプロセスを完全に返却し、残るのはアドレス、タイトル、アイコン、履歴だけになります。開き直すとページは再読み込みされます。タブのツールチップは **Asleep to save memory — loads again when opened** でそのことを示します。値を 0 にすると、タブは無期限に眠ったままになります。

28. バッテリー駆動時の動作

> **場所：**自動で働き、コマンドはありません。デスクトップ。Android と iOS では、システムのメモリー警告への反応がこれに相当します。

機能：ノートパソコンがバッテリーで動いているとき、タブを眠らせるまでの待ち時間と、メモリーを返却するまでの待ち時間が短くなります（それぞれ三分の一と半分になり、一分より短くはなりません）。ユーザーがこの機能をオフにしている場合はオンに戻さず、メモリーの返却の値が 0 なら 0 のままです。

C. アドレスバー、ナビゲーション、検索

29. アドレスバーとナビゲーション

> **場所：**上部のバーの中央の欄。`Ctrl/Cmd+L` でフォーカスが移ります。「戻る」「進む」「再読み込み」「停止」のボタンはその左にあります。

> **機能：**アドレスを開き、検索を始め、今いる場所を示します。「再読み込み」と「停止」は同じボタンで、ページが読み込み中かどうかによって切り替わります。スマートフォンでは「再読み込み／停止」ボタンが欄の中の右側にあり、操作していないとき欄にはサイト名だけが表示されます。

30. ローカルで計算するオムニボックスの候補

> **場所：**入力中にバーの下に表示される一覧。

> **機能：**すでに開いているタブ、お気に入り、リーディングリストの項目、他の端末のタブ、履歴を候補として示します。並べ替えはすべてこのマシンの上で行われ、入力した文字が候補サービスに送られることは一切ありません。

31. 検索エンジンの選択

> **場所：**アドレスバーから**初めて検索**したとき、結果の上に質問がひとりでに表示されます。その後は 設定 → **Search** → **Default search engine**。

> **機能：**別の指定がない限り、Ciotto は DuckDuckGo で検索します。初めての検索のとき、バーに **Searching with DuckDuckGo. Use another one?** と表示され、DuckDuckGo、Google、Bing、Brave Search、Ecosia、Startpage に加えて **Keep DuckDuckGo** が示されます。依頼した検索は、答えを待たずにそのまま実行されます。この質問は、答えがどうであれ、端末ごとに一度だけ表示されます。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。

32. キーワード付きのカスタム検索エンジン

> **場所：**設定 → **Search** の、名前・キーワード・アドレスのテンプレートを入力する追加用の枠。

> **機能：**独自のエンジンを定義できます。検索語の位置に `%s` を入れたアドレスのテンプレートを持ち、`@` で始まるキーワードで呼び出せます。

33. ページ内検索

> **場所：**`Ctrl/Cmd+F`、⋮ → **Find in Page…**、メニューバー → **View** → **Find in Page…**。次と前の一致箇所へは `Ctrl/Cmd+G`、`F3`、`Ctrl/Cmd+Shift+G` でも移動できます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Find in page**。

> **機能：**開いているページの中で文字列を探し、一致箇所を強調表示して、全体のうち何件目にいるかを示します。

34. ページのズーム

> **場所：**拡大と縮小は `Ctrl/Cmd+` と `Ctrl/Cmd-`、既定のズームに戻すには `Ctrl/Cmd+0`。⋮ → **Zoom (100%)** は現在の倍率を示すサブメニューで、**Zoom In**、**Zoom Out**、**Actual Size** があります。メニューバー → **View**。覚えているサイトの一覧は 設定 → **Appearance & accessibility** → **Per-site zoom** にあります。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Zoom in** / **Zoom out** / **Reset zoom**。

> **機能：**ページを拡大・縮小し、その倍率をサイトごとに覚えます。同じサイトは、どのタブで開き直してもその倍率から始まります。倍率が既定と違うとき、ツールバーにパーセンテージが表示され、それをクリックすると既定に戻ります。設定の一覧では、各サイトに、それを忘れさせるための ✕ があります。スマートフォンでは、ズームの項目はシートを開いたままにし、操作のたびにパーセンテージを表示します。

35. サイト情報

> **場所：**バーの中、アドレスの左にある錠前のアイコン（ページが `http://` のときは開いた錠前になり、色が付きます）。

> **機能：**接続が暗号化されているか、どの証明書がそれを守っているか、そのサイトでどの保護機能が有効か、そのサイトにどの許可が与えられているか（Ask、Allow、Block。ワークスペースごとに保存されます）、サイトがプロファイルにいくつの Cookie を保持しているかを示す枠を開きます。許可はそこから変更できます。Android と iOS では、この枠は接続と許可を示し、証明書や保護機能の一覧はありません。カメラとマイク、位置情報は変更でき、他の許可はブロックされた状態として表示されます。

D. 分割表示とパネル

36. ウィンドウを分割する

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+D` で右に分割、`Ctrl/Cmd+Shift+E` で下に分割。メニューバー → **Layout** → **Split Right** / **Split Down**、⋮ → **Layout** → **Split Right** / **Split Down**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Workspaces and layout** → **Split screen**。

> **機能：**ひとつのウィンドウに複数のページを並べます。分割すると元のページのコピーが開くので、同じ文書の二か所を見比べるのにショートカットひとつで済みます。スマートフォンではパネルは最大二つで、分け方は画面の向きに従います。縦向きでは上下に、横向きでは左右に並びます。

37. ドラッグできる境界

> **場所：**二つのパネルを隔てる仕切りを、直接マウスで操作します。

> **機能：**パネルの組はどれも、つかめる仕切りで隔てられています。仕切りをドラッグすると、ドラッグしている間にページの大きさが変わります。

38. レイアウト描画モード

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+L`、⋮ → **Layout** → **Draw Layout⋯**、メニューバー → **Layout** → **Draw Layout⋯**。このコマンドはツールバーにピン留めできます（⋮ → **Customise Toolbar** → **Draw layout**、項目 154）。初期状態ではツールバーにありません。

> **機能：**各ページを静止画として固め、動いているビューを隠すので、その上に線を描けます。縦の線はパネルを左右に、横の線は上下に分けます。各境界には ✕ が表示され、二つのパネルを一つに戻します。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

39. 用意された配置

> **場所：**メニューバー → **Layout**、または ⋮ → **Layout**：**Single Pane**、**Two Columns**、**Two Rows**、**Grid 2×2**。

> **機能：**用意された配置をひと操作で適用し、各タブが開かれたときの身元はそのまま保ちます。四つの配置はショートカットに割り当てられます（**Single pane**、**Two columns**、**Two rows**、**Grid 2×2**）。既定のキーの組み合わせはありません。

プラットフォーム：デスクトップ。パネルが最大二つのスマートフォンでは、これらのコマンドは表示されません。

40. パネルを閉じる

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Alt+W`、メニューバー → **Layout** → **Close Pane**、⋮ → **Layout** → **Close Panel**。スマートフォンでは⋮シート → **Workspaces and layout** → **Close panel**。

> **機能：**フォーカスのある区画を閉じます。そのタブは捨てられず、隣のパネルへ移ります。

41. パネルの番号付きの目印

> **場所：**パネルが二つ以上あるとき、タブ列の左側。

> **機能：**番号付きの札で、パネル間でフォーカスを移します。パネルが別の身元を使っているときは、札がその身元の色で塗られます。

E. 身元と作業環境

42. プロファイル（閲覧上の身元）

> **場所：**⋮ → **Profiles**。このサブメニューに **This panel browses as**（プロファイルの一覧）、**Split Right As…**、**Manage Profiles…** があります。同じサブメニューが ⋮ → **Layout** → **This Panel Is…** にもあります。ツールバーの色付きの札（二つ目のプロファイルができると現れます）。名前は 設定 → **Profiles & workspaces** で変更できます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Profiles**。

> **機能：**プロファイルは、Cookie、ストレージ、ログインの独立した一式です。パネルにプロファイルを割り当てると、同じサイトを二つ並べて開き、別々の二人としてログインできます。**Split Right As…** は、別のプロファイルの新しいパネルを直接開きます。各プロファイルには最初から名前と色があり、その色によって文字を読まなくても見分けられます。パネルの枠線と各タブの点がその色を帯びます。プロファイルのパネル（**Manage Profiles…**）では、**New profile** でプロファイルを作り、**Use here** でパネルに割り当て、そこで拡張機能を動かすかどうかを決め（**Run extensions in this profile**、項目 141）、**Remove** で削除します。

プラットフォーム：デスクトップ。スマートフォンにもプロファイルはありますが、身元はパネルごとではなくワークスペースごとに選びます。

43. プロファイルのデータを消去する

> **場所：**⋮ → **Profiles** → **Manage Profiles…**、プロファイルの行 → **Sign out of everything**。同じ消去は、より多くの選択肢とともに「閲覧データを消去」（項目 58）で範囲 **Current profile** を選んでも行えます。

> **機能：**プロファイルを削除せずに、その Cookie とストレージを空にします。身元は残りますが、ログインしていた先はすべて忘れられます。確認を求めずにすぐ実行され、ボタンが **Signed out** に変わります。

44. ワークスペース（作業環境）

> **場所：**⋮ → **Workspaces**。このサブメニューに **This window is showing**（環境の一覧）、**Move This Tab To…**、**Manage Workspaces…** があります。タブ列の左にある色付きの札（二つ目のワークスペースから現れます）でも同じ一覧が開きます。名前は 設定 → **Profiles & workspaces** で変更できます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Workspaces and layout** → **Workspaces**。

> **機能：**プロファイルがアカウントを分けるのに対し、ワークスペースはそれ以外のすべてを分けます。自分のタブ、パネルの配置、自分の履歴、自分のメモリー、自分のダウンロード、サイトからの要求に対する自分の回答です。ワークスペースはプロファイルを*指す*ので、必要なら二つの環境で一つのアカウントを共有できます。パネル（**Manage Workspaces…**）では、**New**

workspace で環境を作り、**Remove** で削除します。削除は **remove** と入力するよう求めたうえで、その環境のタブを閉じ、履歴を消去します。

45. ワークスペースの身元を変える

場所：⋮ → **Workspaces** → **Manage Workspaces…**、ワークスペースの行 → **Browses as**。

機能：環境が閲覧に使うプロファイルを変えます。その環境のタブは、同じアドレスで新しい身元のもとに開き直されます。前の身元の Cookie は移されません。Cookie が移ることこそ、アカウントの切り替えで避けなければならないことだからです。各行には、その環境で拡張機能が動くかどうかも表示されます（**runs the extensions** または **no extensions here**）。

46. プロジェクト（保存したウィンドウ）

場所：⋮ → **Projects…**。ツールバーにピン留めできます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Workspaces and layout** → **Projects**。

機能：ウィンドウの配置 — どのページを、どのパネルに分けて、それぞれどの身元で開いているか — に名前を付け、必要なときに専用のウィンドウで開き直します。それまでしていた作業は邪魔しません。パネルには **Save this window** があり、各プロジェクトには **Open**、**Update**、**Rename**、**Delete** があります。

47. プライベートコンテキスト

場所：`Ctrl/Cmd+Shift+N`、メニューバー → **File** → **New private window**。スマートフォンでは ⋮ シート → **New private tab**。有効な間は、ツールバーに **Private** のラベルが表示されます。

機能：共有される一時的なコンテキストで、「第三者として開く」タブとは別のものです。そこで起きたことは、履歴、メモリー、セッションの復元、プロジェクト、同期、タブの受け渡しから除外されます。さらに、ダウンロードは一覧に残らず、プライベートタブはあとで戻すように予約できず、Lightning ID はサイトに提示されません（ログインにも、WebLN や Nostr にも）。ページを保存、印刷、取り込みするときは、先に確認を求めます。そのファイルはプライベートコンテキストの外に残るからです。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。Android では、別々のプロファイルに対応したシステムの WebView が必要です。対応していない場合、プライベートコンテキストは使えません。

48. 異常終了後のセッションの復元

場所：正常でない終了のあと、次に起動したときにウィンドウの上部に表示されるバー。起動の設定が **Continue where you left off**（項目 2）の場合です。

機能：セッションは閲覧中に保存されているので、異常終了のあともウィンドウはひとりでに戻ります。バーは何個のタブが戻ったかを伝え（**Ciotto closed unexpectedly last time — 5**

> **tabs have been restored.**）、**OK** で閉じます。このメッセージは、最初にそれを求めたウィンドウに一度だけ表示されます。他の起動モードでは何も復元されません。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

49. タスクマネージャー

> **場所：**設定 → **Tabs & performance**、セクションの末尾にある **Task manager** の枠。

> **機能：**デスクトップでは、ブラウザのプロセスを実際のメモリー使用量と CPU 使用率とともに一覧にします。Android と iOS では、WebView がページごとの計測値を公開しないため、タブの稼働状態だけを示します。

F. 履歴とメモリー

50. 履歴：タイムライン

> **場所：** `Ctrl+H`（macOS では `Cmd+Y`）、メニューバー → **History** → **Show Full History**、⋮ → **History** → **Show Full History**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **History**。

> **機能：** 訪れたページを新しい順に、日ごと、さらに閲覧セッションごとにまとめて一覧にします（**Timeline** 表示）。検索でき、どの項目でも削除できます。履歴はローカルの SQLite データベースに保存されます。表示の上部には、**Map**（項目 51）、**Pause recording**（項目 53）、**Clear all** もあります。

51. 閲覧の地図

> **場所：** 履歴の表示の中の **Map** タブ、セッションの **Expand**、セッションの **Open map**、タイムラインの項目の **Show path**。向きは **Sideways** と **Downward** で選びます。

> **機能：** すべてのナビゲーションは、どのページから来たかとともに記録されるので、セッションはツリーになります。出発点のページ、そこから開いたものすべて、さらにその先と続きます。リンクをたどると子ができ、アドレスを入力したり検索を始めたりすると新しいツリーが始まります。戻って別の道を選んでも、捨てた枝はその場所に残ります。

52. 今のページから「どうやってここに来たか」

> **場所：** ⋮ → **History** → **Show This Page on the Map**。ツールバーにピン留めでき（⋮ → **Customise Toolbar** → **Map of this page**）、ショートカットにも割り当てられます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Map of this page**。メニューバーの **History** メニューにはありません。

> **機能：** タイムラインの中を探させるかわりに、今見ているページを中心にした地図を開きます。

53. 履歴の記録を一時停止する

> **場所：** メニューバー → **History** → **Pause History**、⋮ → **History** → **Pause History**、履歴の表示にある **Pause recording** / **Resume recording** ボタン。ショートカットにも割り当てられます。

> **機能：** すでに記録されたものを隠さずに、記録だけを止めます。一時停止中は、メモリーのためのページの文章も取り込まれません。**Remember This Page Now** を使ってもです。一時停止の状態は保存され、再起動後も続きます。履歴の表示では、一行で記録が一時停止中であることを知らせます。

54. 履歴の部分的な削除

> **場所：**履歴の表示で、**Timeline** の項目にある ×（**Remove … from history**）と **Clear all** ボタン。期間を指定した削除は「閲覧データを消去」（項目 58）から行います。

> **機能：**自動では何も削除されません。削除は常に手動で、訪問を一件ずつ、期間を指定して（過去一時間、過去 24 時間、過去 7 日間、過去 4 週間）、またはワークスペースの履歴全体を（**Clear all** は確認なしにすぐ実行されます）消します。あるページの訪問記録がひとつも残らなくなると、記憶していた文章と、検索インデックスにあるその項目も消えます。削除のあとインデックスは詰め直され、空いた領域は返却されるので、そのバイトは本当に消えています。

55. メモリー：オンにする操作と同意画面

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+H`、メニューバー → **History** → **Search What You Read…**、⋮ → **History** → **Search What You Read…**。スイッチ **Remember what you read (Memory)** は 設定 → **AI & automations** にもあります。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Search what you read**。

> **機能：**メモリーとは、同じ履歴を逆向きに問い合わせるものです。「どこに行ったか」ではなく、「二週間前に読んだ、API の料金についてのあのページ」です。**オンにするまではオフ**で、オフの間は、この表示そのものが同意画面です。何が保存され、何が保存されないか、何がマシンの外に出るか、どうすればすべてを取り消せるかを普通の言葉で示し、**Turn on Browser Memory** と **Not now** を用意しています。

56. メモリー：取り込まれるもの、決して取り込まれないもの

> **場所：**ひとりでに働きます。規則は同意画面に示されています。⋮ → **History** → **Remember This Page Now** は、求めに応じて今のページを取り込みます（スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Remember this page now**）。結果のカードには **Forget this page** と **Never remember this site** があります。

> **機能：**ページは表示が落ち着いてから四秒後に、タブがまだそこにある場合に限って読み取られます。そのため、リダイレクト、インタースティシャル、すぐに離れたページは入りません。パスワードの欄があるページ（銀行、ウェブメール、管理画面、医療ポータル）、ログインや決済のアドレス、200 文字未満のページ、プライベートウィンドウや「第三者」タブのもの、そして履歴の一時停止中のものは、求めに応じた場合でも**決して保存されません**。すでにログインしているサイトにはパスワードの欄が表示されません。**Never remember this site** があるのはそのためです。

57. メモリー：編集できる計画による検索

> **場所：**メモリーの表示にある検索欄。計画の札はその下に表示されます。

> **機能：**検索はすべてこのマシンの上で行われ、使用中のワークスペースで読んだページだけを対象にします。入力した言葉は**計画** — 重要な語、価格の上限、期間、ページの種類 — として読み取られ、計画は一つずつ外せる札として表示されます。「300 ユーロ未満の黒い靴」は 靴 ·

> 黒 · 300 € 未満 になり、価格は類似度ではなく本物の絞り込み条件です。結果のカードの **Open in a background tab** は、そのページをバックグラウンドで開き直します。

58. 閲覧データを消去

> **場所：**設定 → **Privacy & security** → **Clear browsing data**（保護機能のカタログの上）。`Ctrl/Cmd+Shift+Delete` でそのページが開きます。Android と iOS でも使えます。

> **機能：**三つの段階からなる手順です。一つ目は範囲で、**Current workspace**（履歴、ダウンロードの一覧、サイトの許可についての判断）か **Current profile**（Cookie とセッション、サイトのストレージ、キャッシュされたファイル、保存したパスワード）を選びます。二つ目は期間で、過去一時間、過去 24 時間、過去 7 日間、過去 4 週間、全期間から選びます。期間で絞れるのは履歴とダウンロードの一覧だけで、他のカテゴリーはすべてが消去されます。三つ目はカテゴリーで、それぞれに削除される項目の数が表示されます。あらかじめ選ばれているものはありません。**ダウンロード済みのファイルは決して削除しません。**消えるのは一覧の項目だけです。

G. 作業のための道具

59. 定期検索

> **場所：**⋮ → **History** → **Scheduled Research…**。ツールバーにピン留めできます。保存した検索が一つでもあれば、ツールバーのボタンはいずれにせよ表示されます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Scheduled research**。

> **機能：**何度も繰り返す問い — 競合相手、価格、待っている記事 — を、Ciotto が一定の間隔で実行し直します。間隔は毎時、六時間ごと、毎日、毎週です。各検索は**一つ以上の検索エンジン**を指定し、結果は統合されます。両方で見つかったページは一つのノードになります。示されるのは、人が操作しなくても読み取れるエンジンだけです。

60. ウィンドウを閉じても続く定期検索

> **場所：Scheduled Research** パネルのオプション **Keep searching after the window is closed**。デスクトップのみ。

> **機能：**既定では、Ciotto を閉じると検索は止まります。このオプションを使うと、アプリケーションはシステムの通知領域に残り、予定どおりに実行されます。通知領域のアイコンは、まだ動いていることのしるしであると同時に、終了させるための手段でもあります。求めない限りオフです。

61. アドレスの一覧を開く

> **場所：**⋮ → **Tools** → **Open a List of URLs…**。ツールバーにピン留めできます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Open a list of URLs**。

> **機能：**アドレスバーを二十回往復するかわりに、二十件のアドレスを一度に受け取ります。アドレスは**一定の間隔をおいて一つずつ、バックグラウンドのタブとして**開きます（間隔は一秒から一分の間で選べ、次回のために記憶されます）。一度に開けるのは百件までで、それより長い一覧は切り詰められ、そのことが伝えられます。処理が進んでいる間は、ツールバーのボタンで止められます（**Hold**、**Resume**、**Stop**）。

62. ページや選択範囲からアドレスを集める

> **場所：**同じパネルの **Links on this page** と **In your selection** ボタン。ページのコンテキストメニューにもあります。**Open the Links in This Selection…**（テキストを選択しているとき）と **Open Every Link on This Page…** です。

> **機能：**パネルの後ろにあるページのリンク、または選択した部分に含まれるリンクを集めます。選択範囲では、ただの文字として書かれたアドレスも認識します。世の中でいちばんよくある

> URL の一覧は、リンクになっていないチャットのメッセージやコードの断片だからです。二つのボタンは結果を足し合わせるのではなく**置き換えます**。手で書いたものは残ります。

63. 開いているすべてのタブに質問する

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+A`、ページのコンテキストメニュー → **Ask Every Open Tab…**（テキストを選択しているときは **Ask Your Tabs About This…** も）、⋮ → **Tools** → **Ask Your Tabs…**、メニューバー → **View** → **Ask Your Tabs…**。ツールバーにピン留めできます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Ask your tabs**。

> **機能：**ウィンドウのすべてのタブに、ひとつの質問を投げかけます。パネルはすべてのタブを、チェックボックスと、含めた場合の費用とともに一覧にします。読み取れるもののないページは、省かれるのではなく灰色で一覧に残ります。答えは AI サイドバーに通常のやり取りとして届き、パネルの番号付けに従って `[pagina 3]` のように出典を示します。

64. 送信前のサイズメーター

> **場所：Ask your tabs** パネルの送信ボタンの上。

> **機能：**何かが送られる前に、選んだモデルが受け入れられる量に対してサイズを見積もり、収まらないときは**送信を拒みます**。そして安く済む順に、画像を外す、重いページのチェックを外す、ページごとに送る文章を減らす、より余裕のあるモデルに切り替える、という手立てを示します。数値は見積もりであることを明示しています。

65. このタブをあとで戻す

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+S`、タブを右クリック → **Bring This Tab Back Later…**、メニューバー → **File** → **Bring This Tab Back Later…**。待機中のものの一覧は ⋮ → **Tools** → **Tabs Coming Back…** にあります。待機中のものがあるとき、ツールバーにボタンが表示されます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Tabs coming back**。

> **機能：**お気に入りの逆です。タブは**今すぐ閉じ**、待っていたことが起きたときに戻ってきます。それはある時刻（**In three hours**、**This evening**、**Tomorrow morning**、**This weekend**、**Next week**、または選んだ時刻）、規則（毎週月曜の九時、毎月一日）、あるいは**次にあるサイトを訪れたとき**です。タブはバックグラウンドのタブとして戻り、ボタンに点が付き、オフにできる通知も出ます。ロックしたタブ、プライベートタブ、「第三者」タブ、Ciotto の内部ページは、あとで戻すことができません。断る理由は説明されます。

66. ウィンドウを閉じても待機するタブ

> **場所：Tabs Coming Back** パネル：**Keep waiting after the window is closed** と、ウィンドウが一つもないときにどうするかの選択。

> **機能：**Ciotto を通知領域に残しておき、ウィンドウが開いていなくてもタブが戻れるようにします。システムのスタートアッププログラムには追加されないので、マシンを再起動すると待機

は途切れます。期限が来たときにウィンドウがなければ、次のウィンドウのために用意しておく、そのためにウィンドウを開く、知らせるだけにする、のいずれかを選べます。

67. お気に入りとリーディングリスト

場所：アドレスバーの星（一回クリックするとページをワークスペースのお気に入りに保存し、二回目のクリックで **Folder**、**Manage favorites…**、**Remove** が開きます）、`Ctrl/Cmd+D`（**Bookmark this page**）、⋮ → **Favorites and reading list**。ここには **Open saved items**、**Save as favorite**、**Add to reading list** があり、それぞれに **Current workspace** と **Personal** があります。ツールバーのブックマークボタンと `Ctrl/Cmd+Shift+O` で **Saved items** ページが開きます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Favorites and reading list**、今のページを保存するには **Page** → **Save page…**。

機能：お気に入りと**リーディングリスト**の二種類の項目を、整理され、検索でき、フォルダに分けられる一つの保管場所にまとめます。各項目には範囲があります。**個人**（どこでもユーザーに付いていく）か**ワークスペース**（その環境に残る）で、行の **Personal** / **Workspace** ボタンで切り替えます。フォルダは名前に `/` を入れると入れ子になります（仕事/顧客）。項目はドラッグか矢印で並べ替えられ、リーディングリストの項目は **Read** で既読にできます。

68. 保存した項目のオフラインコピー

場所：Saved items 表示 → **Reading list**、行の **Offline** コマンド。コピーはリーダーで開き、そこに **Delete copy** と **Close** があります。

機能：リーディングリストのページの読めるコピーを保存します。コピーはリーダーモードと同じように掃除され（スクリプト、フォーム、外部の画像はありません）、暗号化されてプロファイルに結び付けられるので、サイトが消えても項目は読めるままです。作成するにはページがタブで開いている必要があり、「第三者」タブからは作成できません。オフラインコピーが他の端末へ同期されることは**決して**ありません。

69. リーダーモード（Reader）

場所：⋮ → **Page** → **Reader mode**（有効なときは **Exit Reader mode** になります）。ショートカットに割り当てられます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Reader mode**。初期状態のクイックアクションの一つでもあります。

機能：記事から周りの要素を取り除き、読みやすい形で表示します。実行可能なコンテンツとフォームを取り除き、読んでいた位置を保ち、自分の判断でメモリーに何かを取り込むことはありません。

70. メディアコントロールと Picture in Picture

場所：ツールバーの ♪ ボタン（タブが音を出しているか、ミュートされているときだけ表示されます）、⋮ → **Tools** → **Media controls**、タブを右クリック → **Picture in Picture**。スマートフォンでは、タブを長押し → **Picture in Picture** と **Mute tab**。

機能：すべてのタブで鳴っているものを一つのパネル（**Media**）にまとめます。**Play** と **Pause**、十秒の前後スキップ、**Mute**、そして **PiP** があり、PiP はプラットフォームが対応していれば、動画を常に手前に表示される小さなウィンドウに切り離します。デスクトップでは、Ciotto が前面にあり何かが鳴っている間、キーボードの再生／一時停止キーと停止キーも反応します。Ciotto はメディアのコンテンツを読みません。ページが公開しているコマンドだけを使います。スマートフォンにはこのパネルがなく、再生とスキップはシステムのコントロールに任されます。

71. ページに結び付いたメモ

場所：ツールバーの **Notes for this page** ボタン（常に表示）、または：→ **Notes** → **Notes for This Page** / **All Notes**。ツールバーにピン留めでき、ショートカットにも割り当てられます（初期状態では割り当てはありません）。スマートフォンでは：シート → **Page** → **Notes for this page** / **All notes**。

機能：ページの横にメモ欄を開きます。右か下かを選べます（**Dock notes to the side** と **Dock notes below** のボタンはパネルの見出しにあり、選択は記憶されます）。メモ欄は**ページを覆うのではなく、ページを狭めます**。そのため、書いている間もページは動いたままで、移動もできます。ページの上に重なるためにページを静止画として固める他のパネルとは、この点が違います。書いている間に自動で保存されます。

メモ欄はタブではなく**アドレス**に結び付いています。そのページに戻ればメモ欄も戻ってきます。別のウィンドウで、一週間後でもです。アドレスは保存の前に掃除され、`#ancora`、資格情報、`utm_source` のようなトラッキングコードが取り除かれます。そのため、メールマガジンから来ても、ブックマークから来ても、同じページなら一つのメモ欄を共有し、`?id=99` と `?id=100` は、実際にそうであるとおり別々の二つのページのままです。

パネルの下部、**Also noted on this site** の下には、**同じサイトでメモを書いた他のページ**が並びます。`pippo.com/prodotti` にいれば、`/servizi` と `/contatti` にもメモがあることがわかり、クリックひとつでそこへ行けます。**All Notes** は、すべてのメモを**サイトごとにまとめた**ページを開き、本文の中まで検索できます。**スマートフォンでは**メモ欄は常に下に付きます。幅の狭い画面には、ページを奪わずに横のパネルへ割ける幅がないからです。

同期：メモには、同期のカテゴリーの中に専用のカテゴリー **Page notes** があり（項目 127）、履歴と同じように**初期状態ではオフ**です。理由は、メモはあなた自身のものですが、メモを書いたページの一覧は、誰も公開を承諾していない読書の記録だからです。自分の端末の間で持ち運ぶ価値はありますが、求められないうちに持ち運ぶことは決してありません。

H. マクロと自動化

72. Macro Studio

> **場所：**⋮ → **Macros** → **Manage Macros…**、設定 → **AI & automations** → **Open Macro Studio…**。ショートカットに割り当てられます。Ciotto の内部タブとして開きます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Macros**。

> **機能：**ブラウザでした作業を、調べ、分岐させ、再実行できるローカルのフローチャートに変えます。左にはマクロの一覧があり（フィルターは **All** と **Scheduled here**）、AI ステップを含むものには **AI**、エラーのあるものには **needs fixing** のラベルが付き、最後の実行結果も表示されます。中央はフローチャートで、**Add a step**（検索とカテゴリー付きのメニュー：Page、Browser、Control、AI、Data、Finish）、元に戻す・やり直し、ポインターを重ねると各ノードの説明を表示する **?**、そして **Guide** があります。右には選んだノードのプロパティ、またはマクロの設定が、セクションに折りたたまれて表示されます。変更は自動で保存されます（**Saving…** / **Saved**）。マクロがモデルを使うかどうか、実行の準備ができているかどうかは、自分で選ぶものではなく、含まれているステップによって決まります。マクロはアプリケーションのローカルデータフォルダに保存され、その形式には任意の JavaScript も上限のないループも存在しません。

プラットフォーム：作成と編集はデスクトップ、Android、iOS。記録（項目 73）はデスクトップのみで、スマートフォンで実行できるのは一部の種類のステップだけです（項目 74）。

73. マクロを記録する

> **場所：**⋮ → **Macros** → **New Recording**、その後 **Pause Recording** / **Resume Recording** / **Stop and Save Recording**。Macro Studio の中では ● **Record** ボタンで、その横で **Compact record** と **Faithful record** を選べます。記録中はツールバーの枠に、名前、記録の細かさ（**Compact** / **Faithful**、クリックで切り替え可能）、**Pause** / **Resume**、**Stop** が表示されます。

> **機能：**あなたの操作を記録します。**コンパクト**モードでは意味のあるクリックを残し、欄の変更をまとめます。**忠実**モードでは、キーの組み合わせと重要なスクロールも残します。モードは記録中に切り替えられます。記録または実行は、アプリケーション全体で一度に一つしか有効にできません。機密性の高い欄（パスワード、ワンタイムコード、カード番号、セキュリティコード、IBAN）は平文では記録されません。名前付きの入力（項目 76）になり、その欄の中で押したキーもマクロには入りません。プライベートウィンドウや「第三者」タブからは何も記録されません。開いたアドレスは、選んだ検索エンジンでの検索も含めて、ブラウザが解決したとおりに保存されます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

74. マクロを実行する：事前確認とステータスバー

> **場所：**Macro Studio の中の **Run** ボタンと、その矢印 ▾（**Run options…**）、⋮ → **Macros** の中のマクロ名、ツールバーにピン留めしたマクロ、マクロに割り当てたショートカット（項目 152）。実行中は、ツールバーとページの上の帯に状態が表示されます。

> **機能：**足りないものがなければ、**Run** はすぐに始まります。値が足りないとき、または **Run options…** を使ったときは**事前確認**が開き、どこで実行するか（**Current browser** または **Dedicated window**）、どの安全性で実行するか（**Confirm each action**、**Confirm risky actions**、**Pre-authorized actions**）、どのセッションとプロファイルで、どの資格情報セットとどのモデルを使うか、どの値を入力する必要があるかを示します。メニュー、ピン留めしたボタン、ショートカットでも同じです。確認に問題がなければマクロは始まり、問題があれば Macro Studio がその問題の箇所を開きます。実行中は一時停止、再開、停止ができます。確認が必要なステップでは、**Allow once** と **Stop**、そしてリスクの種類を示すバーが表示されます。終わると帯が結果を伝えます。どのステップが失敗したか、そしてマクロがデータシートに書き込んだ場合は、何個のセルにどこへ書いたかを、**Open the sheet** とともに示します。AI ステップのないマクロは、どの AI プロバイダーとも通信せずに動きます。

プラットフォーム：デスクトップ。Android と iOS で実行できるのは、スマートフォンが実行できるステップだけでできたマクロです（アドレスを開く、ページから読み取る、シートに書き込む、タブを開く・選ぶ・閉じる、変数、条件、テキストだけを対象にした AI による抽出と判断）。それ以外のマクロについては、事前確認がステップを飛ばすかわりに、どのステップが足りないかを伝えます。

75. ページからの読み取りと AI ノード

> **場所：**Macro Studio → **Add a step**：カテゴリー Page の **Read from page**、カテゴリー AI の **AI extract**、**AI decision**、**AI mini-agent**。

> **機能：****Read from page** はモデルを一切使わずにページの要素を読み取り、そのテキスト、欄の値、リンクのアドレス、または属性を変数に保持します。要素は開いているページの上で指し示して選び、マクロは座標ではなく安定した参照を保存します。読み取りが失敗するおそれがあるときは、**Use AI if reading fails** を使うと、同じ変数に書き込む AI による抽出がエラー時の分岐に追加されます。モデルを使うノードは三種類です。**AI extract**（値を取り出す）、**AI decision**（宣言された結果の中から選ぶ）、**AI mini-agent**（柵の内側でページを操作する）です。それぞれが独自のコンテキスト（テキスト、スクリーンショット、またはその両方）と、独自のプロバイダーとモデルを持ちます。ミニエージェントには、許可するツールの一覧、許可するドメインの一覧、ターン数と操作数の上限、最大時間もあります。保存した秘密の値はログイン欄にしか入れられません。ミニエージェントがそれを他の場所に書こうとすると、マクロは止まります。

76. マクロの機密の値と資格情報セット

> **場所：**Macro Studio の入力ノードのプロパティ、マクロの設定の **Required data** セクション、事前確認の **Credential set** の選択と **Save encrypted set**。

> **機能：**記録された機密性の高い欄は、入力された値を保存しません。**名前付きの入力**になり、実行時に尋ねられるか、事前に **Required data** で設定されます（秘密の値はこの端末の中で暗号化されたままです）。任意で使える資格情報セットは、OS のキーチェーンを通じて暗号化されます。暗号化が使えない環境では、一回の実行にだけ有効な値しか受け付けません。Linux では、本当の保護のないキーチェーン（`basic_text`）は暗号化として扱いません。実行中の確認では、どの欄とどの変数がこれから使われるかが示されます。

77. ひとりでに動くマクロ

> **場所：**Macro Studio、マクロの設定 → **Run on a schedule**。一覧のフィルター **Scheduled here** で、この端末で有効化したものが表示されます。

> **機能：**保存したマクロを、誰も起動しなくても実行します。**Every so often**（5 分ごとから、それより長い間隔）または **At a time of day** で、曜日を選べます。規則はマクロと一緒に他の端末へ移りますが、実行は移りません。実行させたい端末ごとに **Save and activate** で個別に有効化する必要があるので、ペアリングした二台のマシンが同じ仕事を二度することはありません。**Pause schedule** で止められます。有効化する前に、Ciotto はそのマクロが誰も見ていなくても本当に動けるかを確かめます。確認を求めるステップがないこと、新しいウィンドウを開かないこと、身元を割り当てたパネルがないこと、リスクのあるステップがすべて事前に許可されていることです。何か問題があれば、理由の一覧がボタンの横に表示されます。デスクトップでは、実行は見えないウィンドウの中で行われます。**Keep running with no window open** を使うと、最後のウィンドウを閉じたあとも Ciotto は通知領域に残ります。**Tell me** では、知らせ方を **Never**、**When one fails**、または実行のたび（**Every run**）から選びます。自分のプロファイルを使うように設定したマクロは、**Allow it to run as the real you** にチェックを入れた場合に限り、あなたのログイン状態で動きます。そうでなければ使い捨てのセッションで始まります。**Run it now** ですぐに試せます。コンピューターの電源が切れている間に飛ばされた実行は、一回にまとめられます。

プラットフォーム：デスクトップ。Android と iOS では、スケジュールしたマクロはバックグラウンドでは動けません。Ciotto が開いているときに、起動時、前面に戻ったとき、または定期的な確認のときに始まり、実行は画面に見えたままです。

78. データシート

> **場所：**⋮ → **Macros** → **Data sheets**、Macro Studio の **Write to sheet** ステップ（カテゴリー Data）、⋮ → **Macros** → **Open macro results folder**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Data sheets**。

> **機能：**マクロが読み取ったものを、セルごとに書き込んでおく場所です。**Write to sheet** ステップはシートを選び（または **New sheet…** で作り）、セルを選びます。**One fixed cell**、列の **Next free row**、または **One row per day** で、最後のものは値の横に日付を入れ、行を追加するかわりにその日の行を書き直します。秘密の値が書き込まれることは決してありません。**Data sheets** ページにはシートが表示されます。各セルはどのマクロがいつ書き込んだかを覚えていて、マクロに手を付けずに手で修正できます。シートは名前の変更、空にすること（**Empty it**）、削除、CSV での書き出し（**Export as CSV**）ができ、数式のように見えるテキストはテキストとして扱われます。デスクトップでは **Also keep it as a file…** を使うと、シート

> のコピーもファイルとして保持され、実行や修正のたびに更新されます。**Open macro results folder** は結果のフォルダを開きます。シートの同期カテゴリーは、初期状態ではオフです。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。スマートフォンには、ファイルへのコピーと結果のフォルダがありません。CSV での書き出しはダウンロードするファイルを渡し、**Data sheets** がフォルダの代わりになります。データシートが同期のカテゴリーにあるのは Android と iOS だけです（項目 127）。

I. AI アシスタント

79. AI サイドバー

場所：`Ctrl/Cmd+J`、メニューバー → **View** → **Toggle AI Sidebar**、⋮ → **Tools** → **AI chat**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **AI chat**。

機能：ページの横で交わす会話です（**AI assistant**）。下部のスイッチで、今見ているページを質問と一緒に送るか（**Page context on**）、送らないか（**Page context off — the page you're on is not sent**）を決めます。答えは生成されながら少しずつ届き、**Stop** で中断でき、**Clear** で会話をやり直せます。Enter で送信、Shift+Enter で改行します。キーはメインプロセスの中にとどまり、インターフェースからは決して見えません。

80. AI プロバイダーとモデル

場所：ツールバーのきらめきアイコンのボタン → **AI provider** パネル、⋮ → **Tools** → **AI provider**。使用するプロバイダーは 設定 → **AI & automations** → **AI provider** でも選べます。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **AI provider**。

機能：パネルには **Provider** メニューがあり、設定済みかどうかにかかわらず、すべてのプロバイダーが並びます。Anthropic（Claude）、OpenAI、Google Gemini、xAI（Grok）、DeepSeek、Mistral、Groq、OpenRouter、Ollama（ローカル、自分のマシンの上）です。選んだものについて、状態、キー、**Model** メニュー、**Use this one** を表示します。下部では、アシスタントが今どのモデルを使っているかを示し、**Open the assistant** を用意しています。

81. API キー：入力、検証、削除

場所：**AI provider** パネルで、**Provider** メニューからプロバイダーを選んだあと。

機能：キーは **API key** 欄に貼り付け、**Connect** を押すと、保存される**前に**プロバイダーに対して検証されます。そのため、間違ったキーは最初の質問のときではなく、その場でわかります。OpenRouter にはガイド付きのログインがあり（**Sign in with OpenRouter**、デスクトップのみ）、Ollama では **Look for it on this machine** がローカルのサービスを探し、**How do I install it?** が入手方法を説明します。**Where do I get a key?** はプロバイダーのコンソールへ案内し、**Remove** はキーを削除します。キーはメインプロセスの中にとどまります。マシンにキーチェーンがない場合、パネルはキーが平文で保存されていることを伝えます。

82. ページの翻訳

場所：⋮ → **Tools** → **Translate page** と **Show original page**。翻訳を勧めるバナーは、⋮ → **Tools** → **Offer to translate pages** をオンにしたあとでのみ表示されます（初期状態ではオフ）。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** に、同じ三つの項目があります。

> **機能：**ページの言語を判別し、ページをそのままの場所で翻訳します。テキストはその位置で置き換えられ、今見ている部分から始まります。翻訳には設定済みの AI プロバイダーを使い、**自分のマシンの Ollama** を優先します。費用がかからず、端末から何も外に出ないからです。ネットワーク上のプロバイダーを使う場合、Ciotto は先に同意を求めます。その場合はページのテキストが実際に外へ出るからで、同意は翻訳のたびに求めます。判別できる言語は十五で、クリンゴン語を除くインターフェースのすべての言語です。翻訳の提案がオンのとき、別の言語のページではバナー **This page is in … — translate it?** が、**Translate**、**Never for this site**、**Dismiss** とともに表示されます。プロバイダーが一つもない場合も言語は判別され、バナーは黙っているかわりに、Ollama をインストールするための案内 **Show me how** を勧めます。この提案はセッションごとに一度表示されます。印を付けたサイトはこの端末に残り、設定 → **Appearance & accessibility** → **Per-site translation** で見直せます。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。

J. 音声

83. 音声コマンド

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+Space`（一回押すと聞き取りを始め、もう一回で止めます）、ツールバーのマイクのボタン、⋮ → **Tools** → **Speak a command**、メニューバー → **View** → **Speak a command**。設定 → **AI & automations** → **Voice**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Tools** → **Speak a command**。

> **機能：**声に出して言った一文を、ブラウザへの指示に変えます。サイトを開く、何かを検索する、タイトルを言ってタブに切り替える、ショートカットの一覧にある任意の操作（「タブを閉じて」「再読み込み」）、アシスタントへの質問（完全な答えはサイドバーに表示されます）、ページの欄に書き込むテキストなどです。録音は、文字起こしのできる設定済みの AI プロバイダー — OpenAI、Groq、Google — に、あなた自身のキーで送られます。初回、Ciotto はそのプロバイダーについて同意を求め（**Send your voice to be transcribed?**）、録音は一切保持しません。言葉は Ciotto のすべての言語のラベルとまとめて照合されるので、インターフェースとは違う言語でもコマンドは通じます。ウィンドウを閉じる、他のタブを閉じる、すべてを焼く、の三つは、声または **Yes** と **No** で常に確認を求めます。十秒間答えがなければ「いいえ」として扱われます。文字どおりに認識されたのではなく、モデルが組み立て直したコマンドも、パネルを開くだけのものでない限り確認が必要です。音声は初期状態でオンです（**Speak to Ciotto**）。オフにするとボタンが消え、マイクを開けなくなります。設定では、文字起こしを行うプロバイダー（**Transcribed by**）を選び、キーの組み合わせを変えることもできます。ウェイクワードの聞き取りは表示されていますが、まだ使えません。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。スマートフォンにはツールバーのボタンがないので、⋮ シートを使います。

84. 音声での応答

> **場所：**設定 → **AI & automations** → **Voice**：**Answer out loud**、**Speaking speed**、**Voice**。

> **機能：**音声コマンドのあと、Ciotto は何が聞こえ、何をしたかを声で伝えます（「Opening wikipedia.org」「Done — …」）。そのため、画面を見る必要がありません。わからなかったときは、そう言います。端末にすでにインストールされている音声を使い、何もダウンロードせず、読み上げのためにテキストをどこかへ送ることもありません。どの言語で話せるかは、システムが持っている音声によります。音声機能とともに、初期状態でオンです。話している間は聞き取らないので、自分が発した問いかけに自分で答えてしまうことはありません。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。Android と iOS では、システムの音声合成エンジンで話します。

85. ページ上の作業を声で頼む

> **場所：**同じ音声コマンドで、コマンドの名前のかわりに、ページで何をしてほしいかを言います（「このフォームに私の住所を入力して」）。

> **機能：**声で頼んだ作業を、ページのエージェントに渡します。始める前に、Ciotto は確認を求めます。実行されるのは保存されることのないマクロで、前面のタブのサイトに結び付けられるので別のサイトへ移ることはできず、手で書いたマクロより厳しい上限（少ないターン、少ない操作、二分）の内側で動き、クリックのたび、キー入力のたびに許可を求めます。「いいえ」と言えば、そこで止まります。

プラットフォーム：デスクトップ。Android と iOS では、作業はかわりにサイドバーのアシスタントに渡されます。

K. プライバシーとセキュリティ

86. 盾と「What was blocked here」パネル

> **場所：**ツールバーの盾のアイコンは、ブロックしたものの数を表示し、押すと 設定 → **Privacy & security** を開きます（項目 87）。簡易パネルは：→ **Privacy and identity** → **What was blocked here** から開き、**Privacy and security** という名前でツールバーにピン留めできます。スマートフォンでは：シート → **Privacy and identity** → **What was blocked here** で、初期状態のクイックアクションの一つでもあります。

> **機能：**盾の数字は、起動してから止めた広告、トラッカー、危険なページの合計です。カウンターはメモリーの中にだけあり、起動のたびにゼロから始まります。簡易パネルには、四つの基本の保護機能のスイッチ、前面のサイトについてのスイッチ **Show ads on …**（項目 89）、暗号化された DNS の選択（項目 93）、カウンター（**Ads**、**Trackers**、**Malware**、**Banners**）、そして **Remove** の付いた例外の一覧がまとまっています。リンク **All privacy features** → は完全なカタログへ移動します。盾、パネル、カタログは同じ状態を読むので、食い違うことはありません。

87. 保護機能の完全なカタログ

> **場所：**：→ **Privacy and identity** → **Privacy and Security…**、設定 → **Privacy & security**、ツールバーの盾のアイコン。スマートフォンでは：シート → **Privacy and identity** → **All privacy features**。

> **機能：**上部には、そのセッションのカウンター（**Ads blocked**、**Trackers blocked**、**Malware/phishing stopped**、**Cookie banners rejected**）、保護リストの状態を示す行、そして「閲覧データを消去」（項目 58）があります。その下には、保護機能ごとに一枚のカードがグループ（Network、Identity、Data、Downloads）に分けて並びます。各カードにはタイトルと要約の一行があり、求めに応じて（**What situation does this protect me from?**）、仕組みではなく、その保護機能が応える**現実の状況**を説明する段落が開きます。まだ実装されていない保護機能には、それを約束するカードはありません。そのプラットフォームで動かせないものは表示されません。四つの基本の保護（**Core**）以外の保護機能は、オンにするまですべて**オフ**です。

88. 署名付きの保護リスト

> **場所：**設定するものはありません。状態は 設定 → **Privacy & security** の、カウンターの下の行で確認できます。

> **機能：**何をブロックするかを決めるリスト（広告とトラッカーには EasyList と EasyPrivacy、マルウェアとフィッシングには URLhaus と OpenPhish）は、Ciotto のサイトから署名付きのパッケージとして届きます。パッケージには各ファイルとそのハッシュの一覧があり、プログラムに組み込まれた Ed25519 の鍵で署名されています。規則を一つでも使う前に、Ciotto は署名

とすべてのハッシュを確認し、すでに持っているものより新しくないパッケージは拒否します。そのため、古いコピーを再び出回らせることはできません。確認に失敗しても何も変わりません。最後に検証したコピーが使われ続け、その行に理由が表示されます。一週間より古いパッケージもそのまま使われますが、その行で知らされます。配布版では、署名のないリストに戻ることは決してありません。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。

89. 広告ブロックとアンチトラッキング

場所：プライバシーカタログの最初のカード。**What was blocked here** パネル（項目 86）には、前面のサイトについてのスイッチ **Show ads on …** と例外の一覧があります。

機能：EasyList と EasyPrivacy のリストを使って、広告とトラッキングのリクエストを除外します。配布版では、これらのリストは署名付きのパッケージから届きます。初期状態で**有効**です。**Show ads on …** は、そのサイトに限って、ずっとブロックをオフにします（そのサイトのサードパーティの広告も含めて）。他のサイトには影響しません。例外は、同じスイッチか、一覧の **Remove** で取り消せます。

90. HTTPS-only

場所：プライバシーカタログ。サイトごとの例外は盾から設定します。

機能：`http://` のナビゲーションを、マシンから出る前に `https://` に変えます。本当に `https://` を持たないサイトでは、何も言わない接続エラーではなく、説明付きのブロックページ（**Not secure**）を表示し、三つの選択肢を示します。**Go back**、**Continue anyway**（そのサイトはセッションの残りの間 `http://` のまま）、**Don't block this site again**（そのサイトだけの恒久的な例外）です。例外は **What was blocked here** パネルで見直し、取り消せます。危険なサイトのリスト（項目 91）は昇格の前のアドレスを確認するので、フィッシングの `http://` アドレスは、そのサイトが `https://` で応答しても止められます。

91. マルウェアとフィッシングのローカルリスト

場所：プライバシーカタログ。

機能：このリストは URLhaus と OpenPhish から作られ、保護リストの署名付きパッケージで届き、**マシンの上**にあります。Google Safe Browsing ではないので、これから開くアドレスのことが確認のためにどこかへ送られることはありません。アドレスは、どの書き換え（`https://` への昇格、リンクの掃除）よりも前に照合されます。もう一方のスキームでも、末尾のドットを除いた形でも照合されます。一致するとナビゲーションはブロックされ、**Dangerous site** のページが表示されます。**Continue anyway** はそのアドレスに限った一度きりの許可で、恒久的な例外になることはありません。リストをダウンロードできなかった場合、Ciotto は次の周期まで無防備なままでいるのではなく、30 秒後、2 分後、10 分後、30 分後に再試行し、エラーはリストの状態に表示されます。

92. ダウンロードの警告

> **場所：**プライバシーカタログ。警告はダウンロードシェルフで、ダウンロードの行の下に表示されます。

> **機能：**ダウンロードごとに、深刻な順に三つの点を確認します。出どころ、または途中の転送先のどれかがマルウェアのローカルリストに載っているか（**Matches a known malware/phishing list**）、ファイルがコードを実行できる種類か — インストーラー、スクリプト、ショートカットなど、`.exe`、`.msi`、`.ps1` から `.url`、`.chm`、`.vhdx` まで（**This file type can run code — only open it if you trust the source**）—、そして暗号化されていない接続で届いたか（**Downloaded over an insecure connection**）です。表示されるのは最も深刻な警告です。ダウンロードはブロックされません。ファイルはディスクに届きますが、危険と示されたファイルやリストに載ったファイルでは、**Open** が開く前に確認を求めます。警告をオフにすると、三つとも同時にオフになります。

93. 暗号化された DNS

> **場所：**⋮ → **Privacy and identity** → **What was blocked here** → **Encrypted DNS**：**Off**（**system**）、**Cloudflare**、**Quad9** から選びます。

> **機能：**名前解決を、平文のシステムのリゾルバーではなく、選んだサービスへの DNS-over-HTTPS で行います。初期状態ではオフで、選択は再起動なしにすぐ反映されます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

94. サイトの許可

> **場所：**サイトがカメラ、マイク、位置情報、通知、クリップボード、MIDI デバイス、ローカルネットワークを求めたときに、ページの上に表示されるバー。**Remember for this site**（初期状態でチェック済み）、**Block**、**Allow** があります。すでに出した回答は、サイト情報の枠（項目 35）で見直せます。

> **機能：**尋ねずに許可されるものは何もなく、回答はそのサイトについて記憶されます。許可はワークスペースに属するので、別の環境では同じ質問が一からやり直されます。通知は、サイトが求めて **Allow** と答えるまでは拒否された状態です。ページはこの質問を経ずに通知を表示することはできません。一方、カメラと位置情報については、許可の状態を確かめるだけのサイトにはそれが許可済みとして見えるので、サイトは求めることをあきらめません。実際のアクセスは、いずれにしてもバーを通ります。同じページからの同じ要求が複数あっても、質問は一回にまとめられます。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。スマートフォンで尋ねられるのはカメラ、マイク、位置情報だけで、他の許可は拒否されます。iOS では、位置情報の要求はシステムがサイトごとに行い、Ciotto は経由しません。

95. 第三者として開く

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ（**Open as a stranger**）。その後、リンクを右クリック → **Open Link as a Stranger**。

> **機能：**リンクを、メモリーの中に保たれる使い捨てのセッションで開きます。Cookie も履歴も中には付いてこず、タブを閉じるとそのストレージは、アプリケーションの終了時ではなく、すぐに消去されます。複数のタブで共有されるプライベートコンテキストとは別のものです。「第三者」タブでは保存したパスワードは提示されず、そこで与えた許可はメモリーの中にだけ残り、ワークスペースの許可には影響しません。プロファイルがプロキシを経由して接続している場合（項目 103）、このタブも同じプロキシを使います。

96. フィルターが準備できるまでリクエストなし

> **場所：**プライバシーカタログ。

> **機能：**起動直後の、フィルターのリストがまだ読み込まれていない—、二秒の隙間をふさぎます。この保護が有効なとき、最初のいくつかのリクエストは、広告ブロックとマルウェアのリストの読み込みが終わるまで — 最大で五秒 — 待ちます。五秒たっても準備ができていなければ、そのリクエストは保護なしで送られるのではなく取り消され、リストの準備ができたときにやり直されます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

97. サイトは家庭内ネットワークをノックできません

> **場所：**プライバシーカタログ。要求は許可として表示されます。

> **機能：**公開されたページがプライベートなアドレス（`192.168.*`、`10.*`、ループバック、リンクローカル、`100.64.0.0/10`、`0.0.0.0`）にアクセスする前に、同意を求めます。バックグラウンドのリクエストでも、そこへ直接移動する場合でも同じです。家庭内ネットワークの中を指す名前にも適用されます。Ciotto は判断の前に名前を解決し、ローカルの接尾辞（`.local`、`.lan`、`.home.arpa`…）とルーターによくある名前を認識します。要求は、サイトがローカルネットワークの機器にアクセスしようとしていることを伝えます。この許可は *local-network* という名前で、カメラや位置情報とまったく同じように、オリジンごとに記憶されます。同じページからの同じ要求が多数あっても、質問は一回にまとめられます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

98. クリーンなリンク

> **場所：**プライバシーカタログ。

> **機能：**既知のトラッキング用パラメーター（`utm_*`、`fbclid`、`gclid` など）を、ページが読み込まれる前にナビゲーションから取り除きます。HTTPS-only より前に働くので、掃除されたアドレスが最初から処理の流れ全体を通ります。

99. 期限の切れる許可

> **場所：**プライバシーカタログ。新しい選択肢は許可の要求の中、**Remember for this site** の横に表示されます。

> **機能：**従来の **Always** の横に、**Just for today**（回答した時点から 24 時間）と **For a week**（七日間）を加えます。期限の切れた許可は、一度も求められなかったものとして扱われます。

100. Cookie バナー：隠すのではなく拒否する

> **場所：**プライバシーカタログ。

> **機能：**ページの同意管理ツールを認識して、本当の拒否ボタンを押します。サイトが黙って同意を記録している間に、見た目の小細工でバナーを隠すのではありません。バナーに拒否ボタンがない場合、Ciotto は何もクリックせずにバナーを見えなくし、質問には答えないままにします。拒否したバナーは **Cookie banners rejected** で数えられます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

101. このサイトを閉じたら私を忘れる

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。サイトは、保護機能のカードの下に表示される一覧 **Sites to forget on close** に名前を書いて追加します。**Add** と **Remove** があります。

> **機能：**指定したサイトの Cookie とストレージを、サブドメインも含めて、そのウィンドウにあるそのサイトの最後のタブが閉じられた瞬間に消去します。ウィンドウを閉じたときや Ciotto を終了したときにも消去します（終了時には、消去が終わるのを最大三秒待ちます）。限界は明示されています。同じサイトのコピーが別の場所で開いたままの場合、それは既知で受け入れた隙間として扱い、別のウィンドウからセッションを奪うような消去はしません。

102. 読めるプライバシーレポート

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。レポート（**Recent activity**）は保護機能のカードの下に表示されます。

> **機能：**カウンターを文章に変えます。循環式の記録 — 機能がオフなら決して書き込まれず、現在のセッションの間だけ有効です — が、ブロックごとにサイトとトラッカーのホストを書き留めます。ホストは、プログラムに含まれる小さなドメイン→企業の対応表で解決されます。ただの数字ではなく、「nytimes.com で、Ciotto は Google、Criteo、Taboola へ向かう 9 件のリクエストを止めました」のように示します。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

103. プロファイルごとに異なる出口（プロキシ）

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。プロキシは、プロファイルのパネル（⋮ → **Profiles** → **Manage Profiles…**）のプロファイルの行で設定します。欄には `socks5://host:porta` または `http://host:porta` を入力でき、**Test** ボタンがあります。

> **機能：**各プロファイルのセッションに別々のプロキシを適用し、二つの身元が同じネットワークから来ているように見えないようにします。**Ciotto はプロキシを提供しません。**カードはそのことをはっきり述べています。Test ボタンは、そのプロファイルのセッションを通じて実際のエンドポイントに問い合わせ、本当に動くかを確かめます（**Works** または **Failed**）。プロキシは、ページの WebRTC 通信、そのプロファイルから開いた「第三者」タブ、タブ列のサイトのアイコンにも適用されるので、本当のアドレスが裏口から漏れることはありません。プロキシが有効なとき、ツールバーのプロファイルの札に点が付きます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

104. より多くを求める拡張機能の更新は止められます

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。更新が保留されると、ウィンドウの上部に承認のバーが表示されます。

> **機能：**拡張機能が読み込まれるたびに、そのマニフェストを最後に承認したものと比べます。同じバージョンの再読み込みはそのまま通ります。以前はアクセスできなかった許可やホストを求める新しいバージョンは、読み込みの直後に**セッションから外され**、何が変わったかを正確に述べるバー（「… updated from 1.2 to 1.3 and now also asks to:」）が **Allow this update** で承認されるまで保留されます。この保留は再起動後も続きます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

105. 埋め込みは、あなたが指示したときに読み込まれます

> **場所：**プライバシーカタログ。サイトごとの例外は、保護機能のカードの下に表示される一覧 **Sites where embeds always load** に書きます。

> **機能：**サードパーティの埋め込み要素（YouTube、X、Instagram、Google Maps）を、クリックするまでプレースホルダー（**Load this … embed?**）の後ろに留めておきます。リクエストは内部ページへ振り向けられ、本当のホストにはまったく届きません。プレースホルダーをクリックすると、同じフレームが本当のアドレスへ移動します。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

106. 座標のない写真（実験的）

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。そのうえで**サイトごとに明示的に**有効にする必要があり、保護機能のカードの下にある一覧 **Sites to strip photo data on** にサイトを書きます。

> **機能：**対象となる写真（JPEG、WebP）を、ページから出ていく前に再エンコードします — 写真を開いて保存し直したときと同じ変換です —。それにより、EXIF データと、含まれていれば GPS 座標が消えます。デコードに失敗した場合はアップロードを止めず、元の写真を送ります。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

107. マクロは第三者として実行

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。マクロごとの選択は Macro Studio → マクロの設定 → **Safety & session** → **Session**（**Sandbox — runs as a stranger** または **Your profile — runs as you**）にあり、事前確認が実行のたびにそれを表示します。

> **機能：**この保護がオンのとき、マクロの実行は、すでに開いているタブを使うのではなく、使い捨てのセッションで始まります。実行が開いたタブはすべて同じパーティションを共有するので、あるタブで行ったログインは同じ実行の他のタブからは見えますが、その外からは何も見えません。パーティションは、それを共有する最後のタブが閉じられたときに消去されます。自分の身元が本当に必要なマクロは **Your profile — runs as you** に設定し、事前確認がそのことを知らせます。保護がオフのときは、どの実行も本当のプロファイルで動き、事前確認がそう伝えます。明示している制限：拡張機能は使えず、ダウンロードは既定のプロファイルのものとして扱われます。

プラットフォーム：デスクトップのみ。スマートフォンにはこのスイッチがなく、マクロは常にタブのプロファイルで動きます。

108. プロファイルごとの、もっともらしいタイムゾーンとフィンガープリント対策のノイズ（実験的）

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。カードの下に四つのチャンネル **Canvas noise**、**WebGL noise**、**Audio noise**、**Font measurement noise** が表示され、それぞれに **On** と **Off** があります。タイムゾーンは、プロファイルのパネルのプロファイルの行で選びます（欄 **Machine's own timezone — e.g. Europe/Berlin**）。

> **機能：**あるプロファイルのタブが申告するタイムゾーンを変え、このマシンにとって本物の言語とプラットフォームとの整合性を保ちます。欄を空にするとマシンのタイムゾーンのままで、タイムゾーンではない名前は拒否されます（**Not a timezone**）。さらに、canvas、WebGL、オーディオ、フォント計測が返す値にわずかなノイズを加えます。これらは、Cookie を消しても生き残るフィンガープリントをサイトが組み立てるのに使う面です。ノイズは一つのセッションの間はサイトごとに同じなのでページは壊れませんが、セッションが変わるたびに、またプロファイルごとに変わります。四つのチャンネルは保護機能と一緒にオンになり、それぞれ個別にオフにできます。**完全なフィンガープリント対策ではありません。**画面の大きさ、インストールされたフォント、その他の何十もの信号は本物のままです。適用できなかった場合は、タブを本来の状態のまま残します。ページが壊れることは決してありません。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

109. プロファイルごとに暗号化された Cookie（実験的）

> **場所：**オンにするにはプライバシーカタログ。有効化はプロファイルのパネルのプロファイルの行で、**Enable encrypted vault** と、二回入力するパスフレーズで行います。起動時には **Unlock your vaults** ウィンドウが表示されます。

> **機能：**あるプロファイルの Cookie を Chromium の平文の保管場所から移し、選んだパスフレーズで暗号化した一つのファイルとして保存します。起動時、保護されたプロファイルはどれも**ロックされた状態**で始まります。ロック解除のウィンドウで各プロファイルのパスフレーズを入力でき（**Unlock**、続いて **Continue to Ciotto**）、どれかを飛ばしても、ログアウトした状態で始まるだけで、無防備になるわけではありません。プロファイルの行には **Vault locked — logins not restored.** と表示され、いつでも **Unlock** できます。守るのは Cookie とログインで、サイトのローカルストレージは対象外です。**パスフレーズを失えば、それが守っていた Cookie も失われます。**そういう仕組みです。**Disable vault** は **disable** と入力するよう求めます。マスターパスワードがロックされている場合は、先にその解除を求めます。金庫をオフにすると、そのプロファイルのパスワード、カード、住所も移動するからです。

プラットフォーム：デスクトップのみ。

110. すべてを焼く

> **場所：**⋮ → **Privacy and identity** → **Burn everything**。ツールバーにピン留めでき（項目 154）、ショートカットにも割り当てられます（項目 152）が、既定のキーの組み合わせはありません。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Burn everything**。

> **機能：**今いる環境のすべてのタブを — **ロックしたものを除いて** — 閉じ、空のスタートページに戻します。デスクトップでは先に尋ね（**Close every tab in this environment?**）、その質問は二つのことを伝えます。閉じたタブは `Ctrl/Cmd+Shift+T` で取り戻せること、そしてロックしたタブが何個開いたまま残るかです。同じ質問の中で、**データも消去する**ことを提案します（**Close and clear this profile's data**）。プロファイルの Cookie、ストレージ、キャッシュに加え、その環境の履歴とダウンロードです。**チェックボックス Don't ask again が効くのは、取り戻せる半分だけです：**データの消去は常に確認を求めます。再び尋ねるようにするスイッチは 設定 → **Tabs & performance** → **Ask before burning everything** にあります。このコマンドがマクロに記録されることは決してなく、声で言った場合は常に確認を求めます。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。スマートフォンでは、この項目をタップするとすぐにタブが閉じられ、質問はありません。データは「閲覧データを消去」（項目 58）で消去します。

L. パスワードと資格情報

111. 保存したパスワード

場所：設定 → **Passwords & autofill**、⋮ → **Privacy and identity** → **Passwords and autofill**。後者は開いているサイトについて保存したログイン情報を一覧にし、**Manage passwords…** で管理画面へ移動します。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Passwords and autofill**。

機能：資格情報を**プロファイルごとに**、OS のキーチェーンで守られた鍵で暗号化して保存します。**Save a login** で追加し（HTTPS のアドレスか localhost のみ）、サイト、ユーザー名、ラベルで検索し、**Edit** で変更し、**Remove** で削除します。一覧に表示されるのはメタデータ（サイト、ユーザー名、ラベル）だけで、パスワードは決して表示されません。Linux では、使えるキーチェーンが安全でない場合は保存が拒否され、プロファイルの金庫の保護を有効にするよう求められます。

112. 自動入力

場所：アドレスバーの鍵のアイコン（**Fill a saved password**）。そのサイトの資格情報があるときに表示されます。⋮ → **Privacy and identity** → **Passwords and autofill** は、そのサイトの資格情報を一覧にします。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Passwords and autofill**。

機能：メインフレームのオリジンが保存したものと完全に一致することを確かめたうえで、一度だけ入力します。**フォームは送信しません。**確定するのはユーザーです。「第三者」タブでは、資格情報は提示されません。

113. 住所と支払いカード

場所：設定 → **Passwords & autofill** の **Save address** と **Save card** の枠。入力は、アドレスバーの人のアイコン（**Addresses**）から求めます。このアイコンは、プロファイルに住所かカードが一つ以上保存されているときに表示されます。

機能：住所と連絡先情報、そして支払いカードを、パスワードと同じ鍵で暗号化し、同じ錠で閉じて保存します。マスターパスワードを設定していれば、一方を閉じるともう一方も閉じます。住所は選んだあとでのみ入力され、勝手に入力されることはありません。カードの一覧には下四桁だけが表示され、番号全体は決して表示されません。番号全体の表示（**Show number**）やカードの入力には、**毎回**マスターパスワードの入力が必要です。マスターパスワードがない場合、Ciotto は先に進むかわりに、設定するよう求めます。セキュリティコードは、尋ねられることも保存されることもありません。

プラットフォーム：デスクトップ、Android、iOS。

114. ログイン後の保存の提案

場所：ログインした直後にウィンドウの上部に表示されるバー：**Save your password for … as …?**、**Save** と **Not now** があります。

機能：ログインのフォームが送信されると、Ciotto はその資格情報の保存を提案します。フォームを送信するのはページで、Ciotto ではありません。パスワードはメインプロセスの中にとどまり、不透明なトークンで参照されます。この提案は、プライベートコンテキストや「第三者」タブでは**表示されず**、すでに保存した資格情報についても再び表示されることはありません。スマートフォンではメインのページからの提案だけを受け付け、オリジンはページの申告ではなくタブから取得します。サードパーティのフレームが、別のサイトのために保存を提案することはできません。

115. パスワード生成

場所：設定 → **Passwords & autofill** → **Save a login**、パスワードの欄の横にある **Generate** ボタン。

機能：二十文字のランダムなパスワードを作ります。サイトに貼り付けることも、同じ操作の中で保存することもできます。

116. マスターパスワードと自動ロック

場所：設定 → **Passwords & autofill** の **Master password** の枠：**Set master password**（八文字以上、二回入力）、その後 **Lock now**、**Change**、**Remove**、**Auto-lock**。

機能：すでにシステムのキーチェーンで守られている資格情報の鍵に、もう一度封をします。同じ錠が住所とカードも閉じます。一定時間操作がないと自動でロックします（**1 minute**、**5 minutes**、**15 minutes**、**1 hour**、または **Never**）。これは、パスワードを表示またはコピーする前と、カードを使う前に Ciotto が求める再認証でもあります（項目 117 と 113）。マスターパスワードがなければ、これらの操作は使えません。Cookie の暗号化には影響しません。それは別の機能です。**復旧の手段はありません。**

117. パスワードの表示とコピー

場所：設定 → **Passwords & autofill** の資格情報の行にある **Reveal** と **Copy** のコマンド。

機能：パスワードは、そのたびにマスターパスワードを入力したあとでのみ、表示またはコピーされます。マスターパスワードがなければ操作は始まらず、Ciotto は設定するよう説明します。入力すると、金庫がロックされていた場合はそれも解除されます。表示したパスワードは二十秒後に消えます。コピーはメインプロセスが行い、二十秒後、クリップボードにまだそのパスワードが入っていれば、設定のウィンドウを閉じていてもクリップボードを空にします。すべてのパスワードを平文でまとめて返す経路は存在しません。

118. パスワードの健全性レポート

> **場所：**設定 → **Passwords & autofill**、資格情報の一覧の上（**Password health: ⋯ weak · ⋯ reused**）と、個々の行（**Weak**、**Reused**）。

> **機能：**ネットワークを使わないローカルの確認で、同じプロファイルの複数の項目で使い回されているパスワードと、弱いパスワードを指摘します。照合はメモリーの中で行われ、レポートに含まれるのは識別子と印だけで、パスワードやそのハッシュは決して含まれません。

119. 六桁の TOTP コード

> **場所：**資格情報のフォームの **TOTP secret or otpauth:// (optional)** 欄。コードは資格情報の行に、残りの秒数とともに表示されます。

> **機能：**任意で TOTP の秘密の値（そのままの base32、または `otpauth://` アドレスとして）を資格情報の暗号化されたペイロードの中に保存し、六桁のコードをマシンの上で生成します。秘密の値は、パスワードマネージャーの CSV の列からも取り込まれます。

120. 既知の漏洩の確認

> **場所：**設定 → **Passwords & autofill**、一覧の上にある **Check for breaches** ボタン。

> **機能：**Have I Been Pwned に対する**任意で、求めたときだけの**確認で、k-anonymity を使います。端末から出るのは SHA-1 ハッシュの先頭五文字だけで、パスワードは決して出ません。見つかった項目には **Breached** のラベルが付き、一行でその件数がまとめられます。結果に含まれるのは識別子と件数だけです。

121. システムのパスキー

> **場所：**サイトがパスキーでのログインを提案したときに、ひとりでに表示されます。

> **機能：**パスキーの手続きは、Chromium、Android Credential Manager、Apple の認証サービスの中にとどまります。**パスキーの秘密鍵が Ciotto の保管場所や同期に入ることは決してありません。**

M. Lightning ID

122. Lightning ID を作る

> **場所：**ツールバーの稲妻のボタン、⋮ → **Privacy and identity** → **Lightning Identity**、設定 → **Sync, Lightning & devices** → **Open Lightning…**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Lightning identity**。

> **機能：**この ID は、Ciotto がこのマシンの上で作り、どこにも送らない鍵です。対応しているサイトは、メールアドレスもパスワードもなしにユーザーを認識できます。ログインと WebLN では**サイトごとに別の鍵が見える**ので、サイトどうしが照らし合わせることはできません。一方、Nostr の名前（npub）は一つだけです。Nostr ではそれが公開の身元だからです。ここでの Lightning は、自分を認識してもらうことと、自分の端末どうしをつなぐことだけに使われます。口座も、残高も、チャージするものもなく、支払いもありません。パネルは **Create my identity** と **I already have a recovery phrase** で始まり、ID を作ったあとは鍵と Nostr の名前を表示します。

123. 十二語のバックアップと復元

> **場所：Lightning identity** パネル：**Write down my recovery words**（その後は **Show my recovery words again**）、**I have written them down**、**Restore** の付いた **I already have a recovery phrase**、**Remove this identity**。

> **機能：**その ID に戻る唯一の手段である十二語を表示し、順番どおりに紙に書き留めるよう勧めます。**I have written them down** で確認するまで、パネルは ID がまだ一度も書き留められていないことを警告し、ツールバーのボタンには点が付いたままです。言葉は **Show my recovery words again** で、ほかに何も尋ねられずにいつでも見直せます。復元は既存のフレーズから ID を組み立て直し、入力中に語数を数えます。削除は取り消せません。十二語がなければ、ユーザーを認識していたどのサイトも、もう認識しなくなります。削除を確定するには **remove** と入力する必要があります。

124. ID でサイトにログインする

> **場所：**サイトが Lightning でのログイン（LNURL-auth）を提案したときに、ウィンドウの上部に表示される確認のバー：**Sign in to … with your Lightning identity?**、**Cancel** と **Sign in** があります。

> **機能：**サイトがチャレンジを示し、Ciotto は明示的な同意を得てはじめて、**その**サイト専用の鍵でそれに署名します。バーに答えが返るまでは何も署名されず、要求は二分後にひとりでに期限切れになります。ログインを始めたのが、これからつなごうとしているサイトとは別のページだった場合、バーはそのことを伝えます（**Careful: … opened this login for …**）。ID がまだない場合は、承認するとそれが作られます。プライベートウィンドウでは、ログインは提示されません。

125. ページ向けの WebLN と Nostr

> **場所：**これらを使うページで利用できます。呼び出しのたびに、サイトの許可と同じバーで尋ねる許可を通ります。

> **機能：**ページに、よく知られた二つのインターフェース — `window.webln` と `window.nostr` — を、管理された一つの経路を通じて公開します。WebLN が提供するのはサイトの鍵とメッセージの署名だけで、支払いはありません。**あなたが誰かを見ることと、あなたとして署名することは別々の許可です。**伴うリスクが違うからです。身元を見ることを許されたサイトが、それだけで、そこに署名することまで許されるわけではありません。署名は**要求のたびに**求められ、記憶されることは決してなく、バーは何に署名しようとしているか（メッセージ、または Nostr イベントの種類と内容）を表示します。未来の日付が付いたイベントは拒否されます。ID がまだない場合は、最初の同意でそれが作られます。プライベートウィンドウと「第三者」タブでは、これらのインターフェースは提供されません。

N. 暗号化された同期とタブの受け渡し

> **検証する方への注記：**このセクションの確認には、最新の Ciotto を入れた端末が二台必要です。Web アプリや拡張機能が関わる確認には、さらに公開済みのコンパニオンサービスが必要で、公開されるまでは実施不能として記録してください。資金を必要とする確認はありません。Ciotto にはウォレットも、チャネルも、支払いもありません。

126. 同期の状態

> **場所：**ツールバーの同期ボタン → **Encrypted sync** パネル、⋮ → **Privacy and identity** → **Encrypted sync**、設定 → **Sync, Lightning & devices**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Privacy and identity** → **Encrypted sync**。

> **機能：**パネルには、必要に応じて開くセクションとして、ペアリング（項目 129）、**Send this tab**、**What follows you**、**Inbox**、**Tabs from other devices**、**Devices and contacts**、そして **Connection details** がまとめられています。最後のセクションでは、タブと大容量のデータに使っているトランスポートと、端末が応答するアドレスを確認できます。設定の同じセクションには、カテゴリー、**Revoke** の付いた端末の一覧、**Sync now** コマンドがあります。Ciotto のサーバーがタブやブラウザのデータを保存することはありません。

127. 同期できるデータのカテゴリー

> **場所：****Encrypted sync** パネルの **What follows you** の枠。同じスイッチが 設定 → **Sync, Lightning & devices** にもあります。

> **機能：**カテゴリーはそれぞれ個別にオンとオフを切り替えられます。初期状態で有効なのは、**Remote tabs**、**Workspaces**、**Profile descriptors**（秘密でない記述子のみ）、**Projects**、**Favorites and reading list**、**Portable preferences**、**Sanitised macros** です。初期状態で**オフ**なのは、**Page notes**、**History**、**Memory**、**Passwords (authorized devices only)**、そして Android と iOS では **Data sheets** です。オフのカテゴリーは通常のチェックボックスでオンにします。パスワードには、さらに個々の端末の許可が必要です（項目 137）。端末に表示されるのは、その端末が本当に扱えるカテゴリーだけです。デスクトップには、データシートのカテゴリーはありません。

128. 決して同期されないもの

> **場所：**同期の規則で、どの端末でも同じです。Web アプリでは **Portable data** の枠でこの規則を示しています。

> **機能：**同期に**決して含まれない**ものは次のとおりです。復元フレーズ、秘密鍵、Cookie、サイトのストレージ、パスキー、AI プロバイダーのトークン、プロキシの資格情報、マクロの資格情報の値、Cookie の金庫の中身、保存した項目のオフラインコピー、ダウンロードしたファイル、ダウンロードの一覧、プライベートセッション。パスワードは専用のカテゴリーのもとでだ

> け、端末ごとの個別の許可を得て移動します。意図した唯一の例外は、求めたときだけの、QR によるセッションの受け渡し（ペアリングの次の項目）です。これは、共有したタブのサイトの Cookie とストレージを、一度だけ自分のスマートフォンへ運びます。

129. 端末をペアリングする

> **場所：Encrypted sync** パネル → **Pair a device or contact** → **Invite / QR**、**My device** を選んで **Create 10-minute invite**。最初のペアリングのあとは、**Devices and contacts** → **Pair a new device**。もう一方の端末では、スマートフォンなら **Receive / Scan**、それ以外は **Receive** で `ciotto://pair` のリンクを貼り付け、**Verify**。

> **機能：**十分間有効な、**一度限りで署名付き**の招待を、QR コードと、**Copy invite** でコピーできるテキストとして作ります。デスクトップからスマートフォンへは、一回のスキャンで済みます（**Scan this QR once on the new phone, then approve the request here.**）。スマートフォンは待機し（**Waiting for approval on the desktop…**）、デスクトップが **Pairing request — Allow … as a device?** と尋ね、**Allow** と **Reject** を示します。それ以外の場合、ペアリングは相互に行います。招待を受け取った側が承認し、今度は返しの招待を表示して、それを最初の端末で読み取ります。追加される端末は自分の鍵を保ちますが、復元フレーズは受け取りません。端末を追加できるのは、Lightning ID を保管している端末だけです。追加された端末が招待できるのは連絡先だけです。端末と連絡先の名前は変更できません。

プラットフォーム：カメラによる QR の読み取りは Android と iOS だけにあります。デスクトップではリンクを貼り付けます。

130. QR でセッションをスマートフォンに渡す

> **場所：**デスクトップでは **Encrypted sync** パネル → **Invite / QR**（ペアリング済みの端末があるときは、このセクションの名前は **Receive or share a Ciotto session** です）。スマートフォンでは同じパネル → **Receive / Scan**。

> **機能：**コンピューターで開いているページを、そのログイン状態ごと、すでにペアリングした自分のスマートフォンへ運び、開いている他のタブも一緒に送ります。**Independent Ciotto session** には、アクティブなタブ、**Duration**（5、15、30、60 分。既定は 15）、そして二分間有効な QR が表示され、QR は **Regenerate QR** で作り直せます。一回のスキャンで、そのページのサイトの Cookie とストレージが暗号化されて移されます。スマートフォンはそれを使い捨てのプロファイルに読み込み、ページを通常の Ciotto のタブとして開きます。他のタブはログイン状態なしで届きます。デスクトップでは、バーに赤い **Shared session** の表示が、残り時間と **stop** とともに現れます。停止するか期限が来ると、スマートフォンはそのタブを閉じ、プロファイルを削除します。**Close everything on the phone** は、ペアリングしたスマートフォンに、こうして届いた他のタブも閉じるよう求めます。ページの画像も、遠隔操作のコマンドも送られません。

プラットフォーム：共有はデスクトップ（Windows、macOS、Linux）から行い、受け取りは Android と iOS で行います。iOS では、アプリを前面に出したまま受け渡しを完了する必要があります。Web アプリと拡張機能では使えません。

131. 連絡先をペアリングする

> **場所：Encrypted sync** パネル → **Devices and contacts** → **Invite a contact**。最初のペアリングの前なら、**Invite / QR** で **Contact** を選んでも行えます。相手の Ciotto では **Receive / Scan** または **Receive**。

> **機能：**自分の Ciotto の身元を持つ別の人との関係を結びます。ペアリングは相互に行います。招待を受け取った側が承認し、今度は返しの招待を表示して、それを最初の端末で読み取ります。連絡先はタブを送ったり受け取ったりでき、受け取ったタブは開くまで **Inbox** に残ります。連絡先は、個人の同期にも、どのデータのカテゴリーにもアクセスできません。連絡先からの招待で、端末を自分の端末の仲間に加えることはできません。

132. タブを端末や連絡先に送る

> **場所：Encrypted sync** パネル → **Send this tab**：送り先（**Choose a device or contact**）、**Send** または **Move**、**Optional message** 欄。

> **機能：Send** は今のタブのコピーを送り、タブはこちらにも残ります。**Move** はタブを送り、相手側で開かれた時点でこちらのタブを閉じます。自分の端末へは、読んでいた位置、リーダーモード、元のワークスペースも一緒に移ります。連絡先へはアドレスとタイトルだけです。送れるのは通常の HTTP(S) のタブだけで、プライベートタブ、Stranger タブ、内部タブは拒否されます（**Private, Stranger and internal tabs cannot be transferred.**）。送り先の電源が切れている場合、送信内容は暗号化されたままローカルのキューに残り、七日間、自動で再試行されます。任意のメッセージ（最大 500 文字）はタブと一緒に届きますが、今のところ受け取った側の **Inbox** には表示されません。

133. 受信箱

> **場所：Encrypted sync** パネル → **Inbox**。見出しの横に待機中の件数が表示されます。開くものがある間はツールバーのボタンに点が付き、ツールチップに **Encrypted sync — N waiting** と表示されます。

> **機能：自分の**端末から送られたタブは、デスクトップでもスマートフォンでも自動で開きます。元のワークスペースがこちらにもあれば、そのワークスペースで開きます。**連絡先**からのタブと、自分の端末からのタブで開けなかったものは、ここで待ちます（**Tabs from contacts, or trusted-device tabs that could not open automatically, wait here.**）。それぞれについてワークスペースを選んで **Open** を押すか、**Dismiss** を押します。項目が待機するのは最大七日間です。配信を再試行するコマンドはありません。Ciotto が自動で再試行し、設定の **Sync now** でも再試行されます。

134. 他の端末のタブ

> **場所：Encrypted sync** パネル → **Tabs from other devices**。新しいタブページでは **Tabs from your devices** ブロックで、設定 → **New tab & startup** → **New tab: remote tabs** でオンにします。

機能：開いている安全なタブ（最大 500 個）の暗号化されたスナップショットを、**自分の**端末に向けて（連絡先には決して向けずに）公開し、読んでいたものを別の場所で続けられるようにします。デスクトップでは一覧を見て、項目をクリックひとつで開きます。一方スマートフォンは、ある端末のスナップショットを初めて受け取ったとき、それらのタブを自動で開きます（**A newly paired phone opens its first snapshot automatically.**）。その後、一覧は予備として残ります。**Remote tabs** のカテゴリーがオンになっている必要があります。

135. Web と拡張機能のためのコンパニオンの橋渡し

場所：Web アプリと拡張機能のポップアップ：**Lightning companion** の選択欄。

機能：Web アプリと拡張機能は Lightning を直接は話しません。明示的に選んだネイティブの Ciotto 端末を経由します。メッセージはすでに暗号化されていますが、ランダムなトークンを使う Cloudflare の中継地点を通る前に、もう一重の封筒に包まれます。中継地点は何も保存せず、内容を記録しません。端末としてペアリングすると、Web アプリと拡張機能は完全な端末として扱われ、扱えるカテゴリーを受け取ります。Web アプリはメモ、データシート、パスワードを除くすべて、拡張機能はタブと保存した項目だけです。

136. 端末を取り消す

場所：Encrypted sync パネル → **Devices and contacts** → **My devices**、**Revoke** コマンド。同じ一覧が 設定 → **Sync, Lightning & devices** にもあります。

機能：端末は **revoked** と表示されて一覧に残り、この Ciotto はその端末にタブやデータを送るのをやめ、その端末から送られてくるものも受け付けなくなります。その端末とのセッションの受け渡しが進行中だった場合は、それも終了します。パスワードのカテゴリーの鍵が入れ替えられるのは、取り消した端末がパスワードを許可されていた場合だけです。**端末がすでに受け取ったものを遠隔で消すことはできません。**現在の制限：取り消しが有効なのは、それを行った端末の上だけです。自分の他の端末にはそのことが伝わらず、取り消した端末は、そちらでも取り消すまで、それらの端末を通じて同期を続けられます。

137. 二重の同意によるパスワードの同期

場所：What follows you の **Passwords (authorized devices only)** カテゴリーと、**My devices** の個々の端末の下にある **Allow password sync** / **Stop password sync** コマンド。

機能：パスワードは、初期状態ではユーザーに付いていきません。**二つの同意**が必要です。カテゴリーをオンにすることと、信頼する個々の端末を許可することです（**Password sync needs both the local category switch and explicit permission for each trusted device.**）。ペイロードには専用のカテゴリーの鍵が使われ、許可された端末が許可を失ったり取り消されたりすると、その鍵は入れ替えられます。

O. Chrome 拡張機能

138. Chrome Web Store からインストールする

> **場所：**メニューバー → **Extensions** → **Open Chrome Web Store**、⋮ → **Extensions** → **Open Chrome Web Store**。

> **機能：**ストアからのインストールはそのまま動きます。ストアを開き、インストールのボタンを押すと（Ciotto の中では「Add to Chrome」という表示が「Add to Ciotto」になります）、Ciotto が **Add "…" to Ciotto?** と尋ね、拡張機能が訪れたサイトのデータを読み取ったり変更したりできることを念押しして、**Add extension** と **Cancel** を示します。インストールした拡張機能はアプリケーションのデータフォルダに置かれ、自動で更新されます。項目 104 の機能をオンにしていれば、より多くの許可を求める更新は、承認するまで止められたままです。インストールしたばかりの拡張機能は、ツールバーにひとりでには表示されません。ピン留めする必要があります（項目 140）。Ciotto には拡張機能を削除する専用のコマンドがありません。そのフォルダを削除して（項目 139）、再起動します。

プラットフォーム：デスクトップ（Windows、macOS、Linux）のみ。Android と iOS のウェブビューは拡張機能を受け入れられません。欧州連合では、ストアに Cookie の同意画面が表示され、手で通過する必要があります。

139. パッケージ化されていない拡張機能

> **場所：**メニューバー → **Extensions** → **Open Extensions Folder**。

> **機能：**拡張機能が置かれているフォルダを開きます。そこに `manifest.json` の入ったフォルダを置いて再起動すると、その拡張機能が読み込まれます。Ciotto 用の拡張機能はこうして開発し、拡張機能を取り除くのもこの方法です。

140. 拡張機能のアクションバー

> **場所：**ツールバーのアイコン。⋮ → **Customise Toolbar** → **Extensions** でピン留めした拡張機能のものだけが表示されます。それ以外はすべて ⋮ → **Extensions** にあります。

> **機能：**ピン留めした拡張機能のアイコンをツールバーに表示し、そのポップアップを開きます。これらのアイコンは、コマンドやマクロとツールバーの五つの枠を分け合います（**Pinned to the toolbar — N of 5**）。ピン留めしていない拡張機能には ⋮ → **Extensions** から届きます。ここにはアクティブなタブで使える操作が並び、最後に **Open Chrome Web Store** があります。ボタンを持つ拡張機能が一つもなければ、**No extensions with a toolbar button** と表示されます。アイコンはインターネットからではなく、アプリケーションの内部から提供されます。

141. 他のプロファイルでの拡張機能

場所：⋮ → **Profiles** → **Manage Profiles…**、名前の付いた各プロファイルの下にあるチェックボックス **Run extensions in this profile**。ワークスペースのパネルでは、ワークスペースごとにその状態が示されます。

機能：拡張機能は既定のプロファイルでは常に動きます。他のプロファイルでは、このチェックボックスでオンにします。新しいプロファイルでは初期状態でオフです（チェックボックスができる前に作られたプロファイルでは、オンになっています）。オンにすると Ciotto はそのプロファイルのセッションに拡張機能を読み込み、オフにすると取り外します。現在の不整合：既定とは別のプロファイルのページが前面にある間は、チェックボックスがオンでも、拡張機能のアイコンの列がツールバーから消えます。

P. ダウンロード、ファイル、印刷

142. ダウンロードとシェルフ

> **場所：**`Ctrl/Cmd+Shift+J`、メニューバー → **View** → **Downloads**、⋮ → **Downloads**。ダウンロードの進行中は⋮ボタンに点が付きます。スマートフォンでは⋮シート → **Page** → **Downloads**。

> **機能：**ダウンロードしたファイルは、ウィンドウの下部のシェルフに進み具合とともに表示されます。そこから一時停止と再開（**Pause**、**Resume**、デスクトップのみ）、× によるキャンセルや一覧からの削除、**Open** で開くこと、**Show in folder** でフォルダに表示することができます。**Clear** は、現在のワークスペースの完了した項目だけを取り除きます。コードを実行できるファイル、HTTPS なしでダウンロードしたファイル、マルウェアのリストに載っているファイルは、行に印が付きます。コードを実行できるファイルとリストに載っているファイルでは、**Open** が開く前に確認を求めます。ダウンロードは、それを始めたワークスペースとプロファイルに属し、その身元のログイン状態を使います。**一覧から項目を取り除いても、ディスクのファイルが削除されることは決してありません。**どのプラットフォームでも同じです。一覧は再起動後も残りますが、プライベートのダウンロードの一覧は残りません。

143. ダウンロードフォルダと保存先の確認

> **場所：**設定 → **Downloads & files**：**Ask where to save each file** と **Download folder**。

> **機能：**確認がオフのとき、ファイルは指定したフォルダ（空のままならシステムのフォルダ）に直接保存されます。確認がオンのときは、毎回保存先を尋ねます。これは端末ごとの設定で、他の端末ではユーザーに付いていきません。

144. ローカルファイルを開く

> **場所：**メニューバー → **File** → **Open local file…**、⋮ → **Page** → **Open local file…**、`Ctrl/Cmd+O`。または、ファイルやフォルダをタブの列かツールバーにドラッグします。スマートフォンでは⋮シート → **Page** → **Open local file**。

> **機能：**システムのファイル選択画面で選んだファイル（HTML と MHTML のページ、PDF、テキスト）をタブで開きます。デスクトップでは、ドラッグしたファイルはそれぞれタブで開き、フォルダはたどれる一覧として開きます。ディスクから開いたページは、画像、スタイルシート、スクリプト、フォントをウェブから読み込めますが、ディスクから読み込めるのは自分のフォルダとそのサブフォルダからだけです。保存したページは、そこに自分のファイルを置いています。`fetch`、XHR、WebSocket で応答を読むことも、サイトや別のフォルダを枠に埋め込むこともできません。そのため、ダウンロードした HTML ファイルがディスクを読んだり、その内容をよそへ送ったりすることはできません。

プラットフォーム：ドラッグとローカルページの制限はデスクトップのものです。Android と iOS では、システムのファイル選択画面を使います。

145. ページを保存する

> **場所：**メニューバー → **File** → **Save page** → **Web archive (MHTML)…** または **HTML only…**、⋮ → **Page** → **Save page**。`Ctrl/Cmd+S` は MHTML アーカイブとして保存します。

> **機能：**ページを完全なウェブアーカイブ（MHTML）として、または HTML だけとして保存します。ファイルは、保存先を明示的に選んだあとでのみ書き込まれます。プライベートタブや Stranger タブからの場合、Ciotto は先に警告します（**This action leaves private browsing.**）。

プラットフォーム：デスクトップのみ。スマートフォンでは、⋮ シートの **Save page…** はページをお気に入りかリーディングリストに保存します（項目 67）。

146. 印刷する

> **場所：**`Ctrl/Cmd+P`、メニューバー → **File** → **Print page…**、⋮ → **Page** → **Print page…**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Print page**。

> **機能：**デスクトップでは、まず Ciotto の印刷プレビューを開きます。PDF ビューアでレイアウト済みのページを表示するウィンドウで、そのボタンから、システムの印刷ダイアログを経て印刷するか、PDF をダウンロードします。スマートフォンでは、システムの印刷を直接開きます。

147. ページを PDF として書き出す

> **場所：**メニューバー → **File** → **Export page as PDF…**、⋮ → **Page** → **Export page as PDF…**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Save or share PDF**。

> **機能：**印刷ダイアログを経ずに、ページの PDF を直接作ります。スマートフォンでは、ファイルはシステムの共有シートに渡されます。プライベートタブや Stranger タブからの場合、Ciotto は先に警告します。

148. 内蔵の PDF ビューア

> **場所：**PDF へのリンクやディスクの PDF を開くと、自動で使われます。

> **機能：**デスクトップでは、PDF は普通のファイルのようにダウンロードシェルフに行くのではなく、Chromium のビューアでタブに開きます。そこでスクロール、拡大、テキストの検索、印刷、保存ができます。

プラットフォーム：iOS では、PDF はシステムのウェブビューのビューアで、ページの中に表示されます。Android では Ciotto に専用のビューアがありません。PDF はダウンロードされ、ダウンロードシェルフの **Open** をタップすると、システムのビューアで開きます。

149. ページを画像として取り込む

> **場所：**メニューバー → **File** → **Capture page**、または ⋮ → **Page** → **Capture page**：**Visible area…**、**Full page…**、**Select area…**、**Copy visible area**、**Copy selected area**。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Capture visible area**。

> **機能：**ページを撮影します。見えている範囲、ページ全体、または選んだ部分です。結果は PNG ファイルとして保存するか、クリップボードにコピーできます。50 メガピクセルを超えると、ページ全体は取り込まれません。Ciotto はそのことを伝え（**The full page is larger than the 50 megapixel capture limit.**）、**Capture visible area** か **Export PDF** を提案します。Android と iOS では、見えている範囲だけが提供され、共有シートに渡されます。スマートフォンのウェブビューは、他の範囲を確実に切り取れないからです。使えない項目は表示されません。

150. サイトをアプリとしてインストールする

> **場所：**⋮ → **Page** → **Install this site as an app…**。管理は 設定 → **Web apps**（**Open**、**Uninstall**）。スマートフォンでは ⋮ シート → **Page** → **Install this site as an app** で、**Manage Ciotto apps** もあります。

> **機能：**サイトのマニフェストをもとに、**Create Ciotto app** か **Install in system**（加えて **Cancel**）を提案します。**Create Ciotto app** は、選んだプロファイルに結び付いたままの、ローカルの Ciotto アプリを作ります。デスクトップではブラウザのバーなしで開き、スマートフォンでは Ciotto のタブで開きます。マニフェストの範囲の外へのナビゲーションは、通常のブラウザのタブに戻ります。OS へのインストールは、現在どのプラットフォームでも使えません。Ciotto は、それを装うかわりにそう明示します（**No system web-app installer is available here. Create a Ciotto app instead.**）。プライベートコンテキストや Stranger のコンテキストからは、何もインストールできません。

Q. 設定、更新、配布

151. 設定の十四のセクション

> **場所：**⋮ → **Settings…**、メニューバー → **File** → **Settings…**、`Ctrl/Cmd+,`。スマートフォンでは ⋮ シート → **Settings** で、全画面で開き、**Done** で閉じます。

> **機能：**すべての設定のための中心となる画面で、十四のセクションが四つのグループにまとめられています。**You and Ciotto**：*General*、*Appearance & accessibility*、*New tab & startup*、*Search*。**Browsing**：*Tabs & performance*、*Downloads & files*、*Keyboard shortcuts*。**Privacy and identity**：*Privacy & security*、*Passwords & autofill*、*Profiles & workspaces*、*Sync, Lightning & devices*。**Advanced**：*Web apps*、*AI & automations*、*About & updates*。上部の **Search settings** は、セクションの名前にない言葉からでもセクションを見つけます（たとえば「ollama」で AI & automations に移動します）。いくつかの項目は、どこに属するかを明示しています。言語（**Portable across your trusted devices.**）やダウンロードフォルダ（**Device-local…**）などです。

152. カスタマイズできるキーボードショートカット

> **場所：**設定 → **Keyboard shortcuts**。

> **機能：**ページは二つに分かれています。左ではキーを押して組み合わせを作り（**Build the shortcut**）、右ではドロップダウンからそれが何をするかを選びます（**Choose the action**）。何かを保存する前に、ページは見つけたことを伝えます。**Free — nothing uses it yet.**、**Already assigned to …**、または **The system keeps this one for …** です。対象はブラウザの操作か、保存したマクロ（**Macros** グループ）です。削除したマクロは、その組み合わせを返します。下には全体の一覧があり、**Tabs and windows**、**Navigation**、**This page**、**Privacy and data**、**Panels**、**Layout**、**Application** に分かれていて、**Search actions** で検索できます。各行には ↺（**Reset to default**）と ×（**Disable**）があり、最後に **Reset all to defaults** と、何をするかを横に添えた **Kept by the system** の組み合わせがあります。欄がキー入力を待っている間はメニューのショートカットが止まるので、割り当てるために Ctrl+T を押しても、後ろのウィンドウでタブが開くことはありません。

プラットフォーム：デスクトップのみ。スマートフォンでは、このセクションがそのことを示します（**Keyboard shortcuts are a desktop feature…**）。

153. ブラウザのデータのインポートとエクスポート

> **場所：**設定 → **General** の **Import and export browser data** の枠。パスワードのエクスポートは 設定 → **Passwords & autofill** → **Export passwords** にあります。

> **機能：**HTML、JSON、CSV のファイルから（**Choose HTML, JSON or CSV**）、またはデスクトップでは、同じコンピューターにインストールされている **Chrome**、**Edge**、**Firefox**、**Safari** から直接インポートします。これらのブラウザからはお気に入りと履歴を読み取ります（Safari

からは macOS でのみ、お気に入りだけ)。パスワードと検索エンジンにはエクスポートしたファイルが必要で、ロックされた保管場所がこっそりコピーされることはありません。カテゴリーは **Favorites and reading list**、**History**、**Passwords**、**Custom search engines** です。保存した項目の範囲(**Saved-item scope**:**Current workspace** または **Personal**)と、パスワードを受け取るプロファイル(**Password destination profile**)を選び、**Import selected** を押します。**Cookie、アクティブなセッション、拡張機能、プライベートなデータは決してインポートしません。Export non-sensitive data** は、お気に入り、リーディングリスト、履歴、検索エンジンをエクスポートします。パスワードは別に、マスターパスワードを入力したあとで **Export unencrypted CSV** でエクスポートします。ファイルは平文で、ページはそのことを伝えます。

プラットフォーム:インストール済みのブラウザからの読み取りはデスクトップのみです。Android と iOS では、システムのファイル選択画面で選んだファイルからインポートし、パスワードのエクスポートは使えません。

154. ツールバーにピン留めしたコマンド

場所:⋮ → **Customise Toolbar**。マクロについては、Macro Studio の **Add to header** でも行えます。

機能:Browser commands(新しいタブから **Burn everything** や **Page DevTools** までの二十五のコマンド)、有効な **Macros**、**Extensions** の中から、最大五つの要素をツールバーにピン留めでき、繰り返す操作をクリックひとつで行えます。メニューの上部には、いくつの枠が使われているかが表示されます(**Pinned to the toolbar — N of 5**)。

プラットフォーム:デスクトップのみ。スマートフォンでは、⋮シートのクイックアクションが同じ役割を果たします。

155. 既定のブラウザ

場所:スタートページの **Make Ciotto my default browser** ボタン。

機能:リンクを Ciotto で開くよう OS に求めます。Windows では既定のアプリの設定を開き、選ぶのはその人に任されます。Android ではブラウザの役割についてのシステムの要求を使い、iOS ではシステムの「設定」を開きます。Ciotto がすでに既定のブラウザになっていれば、ボタンは消えます。それを知る手段のない iOS では、表示されたままです。他のアプリケーションから開いたリンクは、起動時でも、Ciotto がすでに開いているときでも、新しいタブで開きます。

156. 更新とリリースチャンネル

場所:メニューバー → **Help** → **Check for Updates…**、⋮ → **Check for Updates…**、設定 → **About & updates** → **Check for updates**。チャンネル(⋮ → **Release Channel**:**Stable** または **Beta (early releases)**、設定では **Release channel**)は、自動更新がある場合にだけ表示されます。スマートフォンでは 設定 → **About & updates**。

> **機能：**より新しいバージョンがあるかを確認します。**自動**モード（デスクトップの公開配布）では、更新はバックグラウンドでダウンロードされ、帯に **Ciotto … is ready. Restart to update.** と表示されて、**Restart Now** と **Later** が示されます。インストールは求めたときだけ行われます。**手動**モード — 非公開のテスト用パッケージ、そして常に Android と iPhone のモード — では、バックグラウンドで何もダウンロードされません。Ciotto はサイトに現在のバージョンを問い合わせ（デスクトップでは起動の少しあとと、その後は四時間ごと、スマートフォンでは起動時とアプリに戻るたび）、より新しいものがあれば、ウィンドウの上部の帯でそれを伝えます（**Ciotto … is available.**、**Download** と **Later** があります）。**Download** はダウンロードのページを開き、テスト用パッケージの場合は認証付きです。インストールは引き続きその人自身の操作です。インストール済みのバージョンがもうサポートされていないとサイトが示した場合、デスクトップはそれを伝え（**This version of Ciotto (…) is no longer supported.**、**Download the Latest Version** と **Quit** があります）、スマートフォンは **Update Ciotto** のある画面を表示します。

157. 認証付きの非公開配布

> **場所：**アプリケーションのコマンドではありません。テスト用パッケージを届ける方法です。

> **機能：**非公開のチャンネルが作る成果物は、正確に次のとおりです。Windows x64 用の NSIS インストーラー、macOS ARM64 用の DMG、Linux x64 用の AppImage と .deb、Android 用の署名済み APK。iOS、Web アプリ、拡張機能については、ダウンロードできる成果物は作られません。Web アプリと拡張機能には更新のコマンドがありませんが、iOS では 設定 → **About & updates** にいずれにせよ **Check for updates** があります（項目 161）。APK の署名を検証できない場合、リリースは拒否されます。

158. パッケージ版で封じられたインターフェースの検査

> **場所：**メニューバー → **View** → **Toggle Interface DevTools**（開発ビルドにのみあります）。**ページ**の開発者ツールは常に使えます。Windows と Linux では `F12`、macOS では `Alt+Cmd+I`（割り当て直せます、項目 152）、メニューバー → **View** → **Toggle Page DevTools**、⋮ → **Tools** → **Page DevTools**。

> **機能：**パッケージ化したビルドは、Ciotto のインターフェースを実行中に検査することを拒みます。保存された状態のコードを守るための作業が、動いているプログラムでの二回のクリックで台無しにならないようにするためです。訪れたページの検査はそのまま使えます。それこそがブラウザの存在理由です。

プラットフォーム：Android では、ウェブビューの検査はデバッグビルドでのみ開かれています。iOS では有効になっていません。スマートフォンには、ページの開発者ツールがありません。

159. Help メニュー：情報、ソースコード、クラッシュレポート

> **場所：**メニューバー → **Help**。

> **機能：****Discover Ciotto**、**About Ciotto**（バージョン、「The browser that works for you, with macros, AI and sign-in over Lightning.」という一文、GPL-3.0 ライセンス、ソースコードのア

> ドレス)、**Check for Updates…**、**Ciotto Website**、**Get the Source Code**、そしてチェックボックス **Report Crashes** をまとめています。クラッシュレポートは、オンにするまでオフのままです。オンにすると、Ciotto はクラッシュをコンピューターに記録し、設定された収集サービスにだけ送ることになりますが、今のところそのようなサービスを持つビルドはありません。チェックボックスをオフにすると、次回の起動から有効になります。

プラットフォーム：デスクトップのみ。macOS では、**About Ciotto** はアプリケーションのメニューにもあります。スマートフォンでは、バージョンと更新は 設定 → **About & updates** にあります。

R. プラットフォームごとの違い

ここまでの機能は、最も完全な形であるデスクトップ版で説明してきました。このセクションの項目は、それ以外の環境で何が変わるかをまとめたものです。追加の機能ではなく、同じ機能が、スマートフォンのインターフェースも含めて、それぞれの対象でどのように現れるかを示しています。

160. Android の Ciotto

> **場所：**署名済みの APK（直接配布のチャンネル）または Play のチャンネルからインストールした Ciotto アプリ。

> **機能：**同じブラウザを、コンパクトな外装で使います（スマートフォンのインターフェースの項目、後述）。⋮ ボタンは、ネイティブのメニューの代わりになる引き出し式のシートを開きます。いちばん上に五つのクイックアクションの列があり、その下に **New tab**、**New private tab**、**Reopen closed tab** と四つのグループ — **Page**、**Workspaces and layout**、**Tools**、**Privacy and identity** — があり、最後に **Discover Ciotto** と **Settings** があります。そこには、本当に動く項目**だけ**が表示されます。まだ移植されていない機能は、表示されているのに動かないのではなく、表示されません。メディアコントロール、ページの開発者ツール、新しいウィンドウ、用意された配置、レイアウトの描画は、意図して除外しています。

161. iOS の Ciotto

> **場所：**iPhone と iPad の Ciotto アプリ。

> **機能：**Android と同じコンパクトな外装で、WebKit による制約に合わせた調整があります。プロセスの休止はシステムに任され、ネイティブの Picture in Picture が使え、同期の受信はアプリケーションがアクティブなときに行われます。アプリケーションが休止している間は、送る側が暗号化されたキューを保持します。Android と同じく、新しいウィンドウを求めるリンクは同じタブで開きます。ページのダイアログ（`alert`、`confirm`、`prompt`）は、サイトの名前と、Ciotto の言語のボタンを表示します。`ciotto://pair` のリンクは、アプリが閉じていても届きます。マイクを求めるページで、カメラの許可まで尋ねられることはありません。位置情報の要求は WebKit のもののままで、iOS では Ciotto はそれを横取りしません。

配布についての注記：非公開のテスト用チャンネルには、iOS のパッケージは作られません。それでも 設定 → **About & updates** にはバージョンと **Check for updates** が表示され、サイトから現在のバージョンを読み取ります。

162. スマートフォンのインターフェース

> **場所：**設定 → **Appearance & accessibility** → **Mobile interface**。⋮ シートの上部にはクイックアクションの列、バーにはタブの数を示すボタンがあります。

> **機能：**Android と iOS のコンパクトな外装を調整します。**Toolbar position** は、バーとタブを下（**Bottom**、初期設定）か上（**Top**）に置きます。再読み込みのボタンはアドレスの欄の中に

あります。**Swipe gestures on the address bar**（初期状態でオン）では、アドレスバーを横にスワイプすると次または前のタブに移り（右から書く言語では逆向き）、画面の中央に向かってスワイプすると — バーが下なら上へ、バーが上なら下へ — タブの一覧が開きます。**Quick actions** では、⋮シートの上部の五つのクイックアクションを選びます（初期設定は **Ask your tabs**、**Notes for this page**、**Reader mode**、**Workspaces**、**What was blocked here**）。順番を変える矢印と **Restore defaults** があります。シートでは、項目の横の「+」でそれを追加でき（**Add ⋯ to quick actions**）、アクションを二秒間長押しするとゴミ箱へドラッグできます。タブの一覧には **Search tabs**、新しいタブ、プライベートタブ、開き直しがあり、タブを **Open** と **Inactive**（眠っているか、アンロードされたもの）に分け、**Pinned**、**Locked**、**Private**、**Stranger**、**Sleeping**、**Discarded** の印を付けます。タブは × か横へのスワイプで閉じられますが、ロックしたタブは閉じられません。タブを閉じたあと、**Tab closed** が **Undo** とともに五秒間表示されます。

プラットフォーム：Android と iOS のみ。スマートフォンでは、一つのウィンドウのパネルは最大二つで、プロファイルはパネルごとではなくワークスペースごとに選びます。

163. Web コンパニオンアプリ

場所：任意のブラウザで開く、認証付きの Web ページ。

機能：ブラウザではありません。同期のためのコンパニオンです。状態とカテゴリーを表示し、端末と連絡先のペアリング（**Invite my device**、**Invite a contact**、**Verify and pair**）、受信箱を読むこと、他の端末のタブを見ること、同期された保存した項目を参照すること、持ち運べる設定（テーマ、言語、ホームボタン、お気に入りバー）を変更することができます。**Send a copy** は、ペアリングしたピアに、このアプリ自身のページのアドレスを、コピーとしてだけ、メッセージなしで送ります。資格情報の鍵がここに届くことは決してなく、オフラインコピーも届きません。

164. Chromium、Firefox、Safari 向けの Ciotto 拡張機能

場所：別のブラウザにインストールした Ciotto 拡張機能のポップアップ。

機能：タブを Ciotto の世界に持ち込むための、機能を絞ったポップアップです。今のタブを、ネイティブのコンパニオンを経由して端末や連絡先に送り（**Send this tab**）、お気に入りか個人のリーディングリストに保存し（**Save favorite**、**Read later**）、受信箱、他の端末のタブ、同期された保存した項目を表示し、招待によるペアリングもできます。ホストのブラウザのアドレスバー、タブグループ、ダウンロード、セキュリティ機能の代わりには**なりません。**パスワードに関わる許可も一切求めません。求める許可は `tabs`、`storage`、`alarms`（Chromium では `offscreen` も）と、すべての http と https のアドレスへのアクセスです。

165. 配布サイト

場所：Ciotto の公開サイト。

機能：製品を紹介し、ダウンロードのリンクと、非公開チャンネルの認証付きページを置いています。**ブラウザの実行環境になることは決してありません。**サイトの中で動く Ciotto の版で

> はありません。

Ciotto は **ciotto.org** からダウンロードできます。このガイドの他の言語版もそこにあります。